

平成 26 年度
当別町地域公共交通活性化協議会
実績報告書

平成 27 年 3 月

当別町地域公共交通活性化協議会

《 目 次 》

1 . 会議の開催実績	1
2 . 当別ふれあいバス運行事業の概要	3
3 . 運行データの分析	6
4 . 運行コストと運行収入	3 5
5 . 利用促進事業の実績	4 1

1. 会議の開催実績

(1) 協議会構成員

表 1-1 当別町地域公共交通活性化協議会委員名簿（平成 27 年 3 月 31 日現在）

選任区分	所属・役職	氏名
当別町長が指名する者	当別町 副町長	増輪 肇
	当別町 福祉部長	高橋 通
	当別町教育委員会事務局 教育部長	野村 雅史
北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	北海道運輸局札幌運輸支局 首席運輸企画専門官	樋口 康弘
北海道石狩振興局長が指名する者	北海道石狩振興局地域政策部 地域政策課長	塚田 みゆき
札幌地区バス協会の代表	札幌地区バス協会	野川 祐次
関係する道路管理者	札幌開発建設部札幌道路事務所 計画課長	貴田 勝太郎
	空知総合振興局 札幌建設管理部 当別出張所長	汐川 雅彦
	当別町 建設水道部長	堤 和弘
関係する鉄道事業者	J R 北海道石狩当別駅長	横関 章
当別ふれあいバス実証運行事業	北海道医療大学 経営企画部総務企画課長	三浦 清志
参加事業者の代表	スウェーデンハウス株式会社 スウェーデンヒルズ管理センター長	深村 俊一
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	有限会社下段モータース 代表取締役	下段 寿之
一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内建材工業株式会社 代表取締役	山内 孝司
一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用運転手が所属する団体等の代表	有限会社下段モータース	加藤 啓一
地域住民及び団体の代表	当別町行政推進員連絡協議会 会長	山下 義則
	当別町 P T A 連合会 副会長	浅野 政輝
	当別町高齢者クラブ連合会 副会長	菊池 久
	当別町女性団体連絡協議会 理事	島田 文恵
	当別町ボランティア連絡協議会 会長	大口 弘美
	当別町商工会 事務局長	五十嵐 一夫
	当別町社会福祉協議会 主任	藤原 徹

(2) 会議の内容

平成 26 年度は、5 回の協議会を開催した。協議会では、地域公共交通総合連携計画に基づき策定した、平成 26 年度計画事業の議論や進捗報告と、平成 27 年度事業計画及び予算の協議を行った。

また、市街地におけるデマンド交通の試験運行についても本協議会で協議を行い、平成 27 年度からのデマンド交通本格運行計画を協議し、策定した。

表 1-2 会議開催内容

回	開催日時	主な協議内容
第 1 回	平成 26 年 5 月 20 日	書面会議 ・ 監査委員の選任について ・ 当別町地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について
第 2 回	平成 26 年 6 月 26 日	・ 平成 25 年度当別町地域公共交通活性化協議会実績報告書について ・ 平成 25 年度当別町地域公共交通活性化協議会決算書及び監査報告について ・ 平成 26 年度当別町地域公共交通活性化協議会の予算変更について ・ 平成 27 年度当別町地域内フィーダー系統確保維持計画について ・ 太陽光発電を活用した地域公共交通活性化事業について
第 3 回	平成 26 年 9 月 4 日	・ 当別町コミュニティバス平成 26 年度 7 月までの実績について ・ 当別町コミュニティバスあいの里金沢線あいの里教育大駅前のバス停移設について ・ 当別町コミュニティバス市街地循環線におけるデマンドバスの実証運行について ・ 平成 26 年 12 月 1 日ダイヤ改正について
第 4 回	平成 27 年 1 月 15 日	書面会議 ・ 平成 26 年度地域公共交通確保維持改善・事業評価について
第 5 回	平成 27 年 2 月 17 日	・ 当別町コミュニティバス平成 26 年度 1 月までの実績について ・ 予約型（デマンド）バスの実績報告について ・ 平成 26 年度当別町地域公共交通活性化協議会予算の執行状況について ・ 平成 27 年度当別町地域公共交通活性化協議会事業計画について ・ 平成 27 年度当別町地域公共交通活性化協議会予算について ・ 太陽光発電を活用した地域公共交通活性化事業について

2. 当別ふれあいバス運行事業の概要

(1) 運行の概要

平成 25 年度と同様に平日 72 便、休日 28 便を運行した。平成 26 年 8 月 30 日の J R 学園都市線のダイヤ改正にあわせ、ふれあいバスのダイヤ改正を行った。

表 2-1 利用料金一覧

	一般	中学生・高校生	小学生・障がい者・介護人
運賃（一般路線）	200 円		100 円
回数券	2,000 円（12 枚綴り）		2,000 円（24 枚綴り）
応援券（1 か月）	4,000 円	2,000 円	
（3 か月）	10,000 円	5,000 円	
（6 か月）	16,000 円	8,000 円	
夏休み冬休み子ども定期券	小学生 500 円、中学生 1,000 円		

表 2-2 運行路線一覧

系 統 名	運 行 系 統	系 統 キ 口	運 行 回 数		備 考
			往	復	
市街地循環線 （昇順コース）	J R 石狩当別駅南口～栄町 ～ J R 石狩当別駅南口 ～春日町～ J R 石狩当別駅南口	11.9 km	6 便		循環 土日祝 運休 H26.11～12 運休
市街地循環線 （降順コース）	J R 石狩当別駅南口～春日町 ～ J R 石狩当別駅南口 ～栄町～ J R 石狩当別駅南口	12.0 km	6 便		循環 土日祝 運休 H26.11～12 運休
西当別線	J R 石狩当別駅南口～ロイズふと美工場	12.0 km	7(8) 回	9(8) 回	
西当別金沢線	北海道医療大学～ロイズふと美工場	16.0 km	4 回	2 回	土日祝 運休
あいの里金沢線	北海道医療大学 ～北海道医療大学あいの里キャンパス	22.1 km	8(3) 回	8(3) 回	
ヒルズ線	J R 石狩太美駅～スエーデンビル W5-3-17	5.6 km	1 回	1 回	土日祝 運休
金沢線	J R 石狩当別駅南口～北海道医療大学	4.0 km	2 回	2 回	土日祝 運休
青山線	J R 石狩当別駅南口～青山会館	15.5 km	8(3) 回	8(3) 回	

（ ）は土日祝日の運行回数

(2) 予約型(デマンド)バス実証運行の概要

利用者が低迷している市街地循環線の運行方法を見直すため、平成26年11～12月の2ヵ月間市街地循環線にかわる予約型(デマンド)バスの実証運行を実施した。予約型(デマンド)バスの実証運行期間中は、既存の市街地循環線を休止した。

表2-3 運行路線

系統名	運行エリア	運行回数	備考
予約型線 (デマンドバス)	西町・北栄町・春日町・東町・緑町・元町・白樺町・園生・錦町・弥生・末広・美里・幸町・下川町・栄町・樺戸町の行政区内	8便	土日祝 運休 H26.11～12のみ運行

運行方法

運行は、自宅付近から指定の施設()間か、指定の施設から指定の施設間とし、自宅付近から個人宅への運行は、不可とした。

自宅付近 指定の施設

指定の施設 自宅付近

指定の施設 指定の施設

指定の施設一覧は、5ページ参照



表2-4 運行時間

運行便数	1便	2便	3便	4便
運行時間	7:00～8:00	8:30～9:30	10:00～11:00	11:30～12:30
予約〆切時間	前日の18:00まで	前日の18:00まで	当日の9:00まで	当日の10:30まで
運行便数	5便	6便	7便	8便
運行時間	13:00～14:00	14:30～15:30	16:00～17:00	17:30～18:30
予約〆切時間	当日の12:00まで	当日の13:30まで	当日の15:00まで	当日の16:30まで

利用料金

一般・中学生・高校生 1回 200円

小学生・障がい者・介護人 1回 100円

当別ふれあいバスの応援券・回数券・1日乗車券も利用可能

指定の施設一覧

駅

J R石狩当別駅

公共施設

当別町役場 当別小学校
 当別中学校 当別高校
 総合体育館 ふくろう図書館
 ふれあい倉庫 ゆとろ
 当別交番 当別消防署

金融機関

北海道銀行 北洋銀行
 札幌信用金庫 当別郵便局
 北石狩農協

医療機関

【病院】

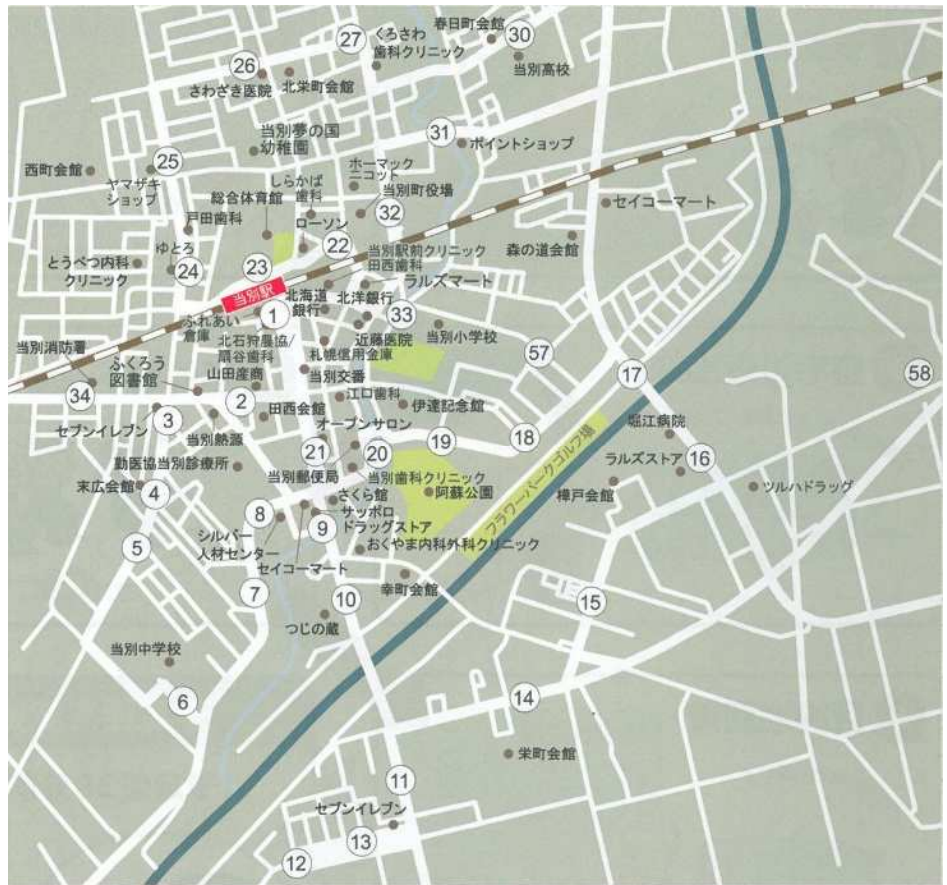
さわざき医院 堀江病院 近藤医院 おくやま内科クリニック
 勤医協当別診療所 とうべつ内科クリニック

【歯科】

当別歯科クリニック 当別駅前クリニック 田西歯科 戸田歯科 扇谷歯科医院
 江口歯科医院 くるさわ歯科クリニック

バス停

J R当別駅南口	榊戸団地	③①ポイントショップ前
田西会館	ラルズ前	③②白榊緑地
末広セブンイレブン前	東町団地	③③当別小学校
末広会館	元町	③④当別消防署
ゆとりっち稲穂	伊達記念館	57 元町浄水場
当別中学校	当別郵便局	58 機械センター
末広団地	②①オープンサロン	
シルバー人材センター	②②当別町役場	
弥生さくら館前	②③J R当別駅北口	
つじの蔵	②④ゆとろ	
栄町	②⑤森林管理署	
札幌土木現業所	②⑥もみじ公園	
ブロードタウン	②⑦北栄団地	
栄町会館	②⑧春日団地	



3. 運行データの分析

(1) 全体利用者数の推移

総利用者数は135,283人となり、平成25年度の実績を約1,100人上回った。
市街地循環線の利用者が最も多い時期に市街地循環線を運休させて予約型（デマンド）
バスの実証運行をしたため、平成25年度よりも11月と12月の利用者が減少した。
北海道医療大学が長期休暇に入る8月及び3月は利用者数が減少している。

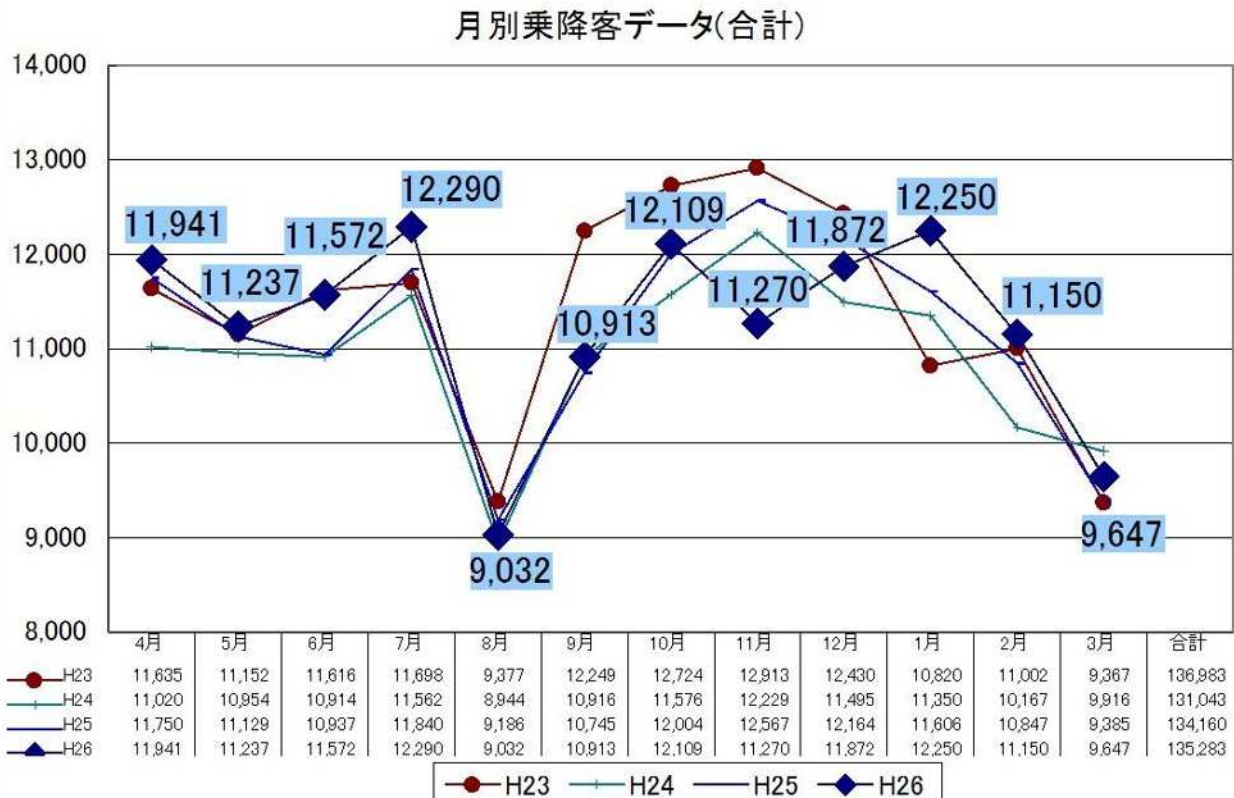


図 3-1 月別利用者推移

乗降者数 実績

	平 日											
	循環(昇順)	循環(降順)	(西当別+ あいの里)	(金沢分)	西当別線	金沢線	あいの里金沢線			西当別金沢線		
							あいの里分	金沢分		西当別分	金沢分	
4月	141人	133人	6,039人	3,962人	1,815人	730人	5,449人	3,663人	1,786人	2,007人	561人	1,446人
5月	153人	144人	5,415人	3,879人	1,771人	841人	4,722人	3,132人	1,590人	1,960人	512人	1,448人
6月	143人	118人	5,825人	3,962人	1,819人	758人	5,139人	3,471人	1,668人	2,071人	535人	1,536人
7月	149人	133人	6,053人	4,263人	1,860人	722人	5,347人	3,637人	1,710人	2,387人	556人	1,831人
8月	124人	108人	5,343人	1,714人	1,486人	154人	4,356人	3,572人	784人	1,061人	285人	776人
9月	115人	112人	5,419人	3,592人	1,743人	628人	4,821人	3,233人	1,588人	1,819人	443人	1,376人
計	825人	748人	34,094人	21,372人	10,494人	3,833人	29,834人	20,708人	9,126人	11,305人	2,892人	8,413人
平均	6.6人/日	6.0人/日	272.8人/日	171.0人/日	84.0人/日	30.7人/日	238.7人/日	165.7人/日	73.0人/日	90.4人/日	23.1人/日	67.3人/日
本数	6便/日	6便/日	40便/日	25便/日	18便/日	5便/日	16便/日	16便/日	14便/日	6便/日	6便/日	6便/日
平均	1.1人/便	1.0人/便	6.8人/便	6.8人/便	4.7人/便	6.1人/便	14.9人/便	10.4人/便	5.2人/便	15.1人/便	3.9人/便	11.2人/便
10月	155人	131人	5,914人	4,225人	1,875人	829人	5,325人	3,536人	1,789人	2,110人	503人	1,607人
11月	0人	0人	5,096人	4,185人	1,459人	631人	5,090人	3,137人	1,953人	2,101人	500人	1,601人
12月	0人	0人	5,943人	3,753人	1,700人	433人	5,386人	3,706人	1,680人	2,177人	537人	1,640人
1月	169人	123人	6,175人	3,601人	1,617人	369人	5,671人	3,970人	1,701人	2,119人	588人	1,531人
2月	223人	184人	5,548人	3,055人	1,663人	222人	5,060人	3,575人	1,485人	1,658人	310人	1,348人
3月	226人	126人	5,704人	1,734人	1,711人	136人	4,626人	3,702人	924人	965人	291人	674人
計	773人	564人	34,380人	20,553人	10,025人	2,620人	31,158人	21,626人	9,532人	11,130人	2,729人	8,401人
平均	9.4人/日	6.9人/日	284.1人/日	169.9人/日	82.9人/日	21.7人/日	257.5人/日	178.7人/日	78.8人/日	92.0人/日	22.6人/日	69.4人/日
本数	6便/日	6便/日	40便/日	25便/日	18便/日	5便/日	16便/日	16便/日	14便/日	6便/日	6便/日	6便/日
平均	1.6人/便	1.1人/便	7.1人/便	6.8人/便	4.6人/便	4.3人/便	16.1人/便	11.2人/便	5.6人/便	15.3人/便	3.8人/便	11.6人/便
合計	1,598人	1,312人	68,474人	41,925人	20,519人	6,453人	60,992人	42,334人	18,658人	22,435人	5,621人	16,814人
平均	7.7人/日	6.3人/日	278.3人/日	170.4人/日	82.9人/日	21.7人/日	257.5人/日	178.7人/日	78.8人/日	92.0人/日	22.6人/日	69.4人/日
本数	6便/日	6便/日	40便/日	25便/日	18便/日	5便/日	16便/日	16便/日	14便/日	6便/日	6便/日	6便/日
平均	1.3人/便	1.1人/便	7.0人/便	6.8人/便	4.6人/便	4.3人/便	16.1人/便	11.2人/便	5.6人/便	15.3人/便	3.8人/便	11.6人/便

	土曜・日曜・祝日									合計	
	青山線	小計	運行日数	あいの里金沢線			青山線	小計	運行日数	乗降者数	運行日数
				あいの里分	西当別分						
4月	763人	11,038人	21日	812人	379人	433人	91人	903人	9日	11,941人	30日
5月	676人	10,267人	20日	859人	381人	478人	111人	970人	11日	11,237人	31日
6月	653人	10,701人	21日	784人	361人	423人	87人	871人	9日	11,572人	30日
7月	757人	11,355人	22日	834人	355人	479人	101人	935人	9日	12,290人	31日
8月	725人	8,014人	21日	891人	401人	490人	127人	1,018人	10日	9,032人	31日
9月	703人	9,941人	20日	866人	347人	519人	106人	972人	10日	10,913人	30日
計	4,277人	61,316人	125日	5,046人	2,224人	2,822人	623人	5,669人	58日	66,985人	183日
平均	34.2人/日	490.5人/日	-	87.0人/日	38.3人/日	48.7人/日	10.7人/日	97.7人/日	-	366.0人/日	-
本数	16便/日	72便/日	-	22便/日	6便/日	16便/日	6便/日	28便/日	-	-	-
平均	2.1人/便	6.8人/便	-	4.0人/便	6.4人/便	3.0人/便	1.8人/便	3.5人/便	-	-	-
10月	786人	11,211人	22日	793人	331人	462人	105人	898人	9日	12,109人	31日
11月	712人	9,993人	18日	1,140人	430人	710人	137人	1,277人	12日	11,270人	30日
12月	871人	10,567人	21日	1,173人	555人	618人	132人	1,305人	10日	11,872人	31日
1月	776人	10,844人	19日	1,300人	586人	714人	106人	1,406人	11日	12,250人	30日
2月	827人	9,837人	19日	1,185人	551人	634人	128人	1,313人	9日	11,150人	28日
3月	902人	8,692人	22日	839人	344人	495人	116人	955人	9日	9,647人	31日
計	4,874人	61,144人	121日	6,430人	2,797人	3,633人	724人	7,154人	60日	68,298人	181日
平均	40.3人/日	505.3人/日	-	107.2人/日	46.6人/日	60.6人/日	12.1人/日	119.2人/日	-	377.3人/日	-
本数	16便/日	72便/日	-	22便/日	6便/日	16便/日	6便/日	28便/日	-	-	-
平均	2.5人/便	7.0人/便	-	4.9人/便	7.8人/便	3.8人/便	2.0人/便	4.3人/便	-	-	-
合計	9,151人	122,460人	246日	11,476人	5,021人	6,455人	1,347人	12,823人	118日	135,283人	364日
平均	40.3人/日	497.8人/日	-	107.2人/日	46.6人/日	60.6人/日	11.4人/日	108.7人/日	-	371.7人/日	-
本数	16便/日	72便/日	-	22便/日	6便/日	16便/日	6便/日	28便/日	-	-	-
平均	2.5人/便	6.9人/便	-	4.9人/便	7.8人/便	3.8人/便	1.9人/便	3.9人/便	-	-	-

表 3-1 月別利用者数一覧

(2) 市街地循環線の推移

平成 26 年度の利用者数は、5 月以外の月は全て平成 25 年度を下回り、合計で約 1,590 人の減少となった。

予約型（デマンド）バスの実証運行時に市街地循環線を運休したため、11 月と 12 月の利用者は、0 となっている。

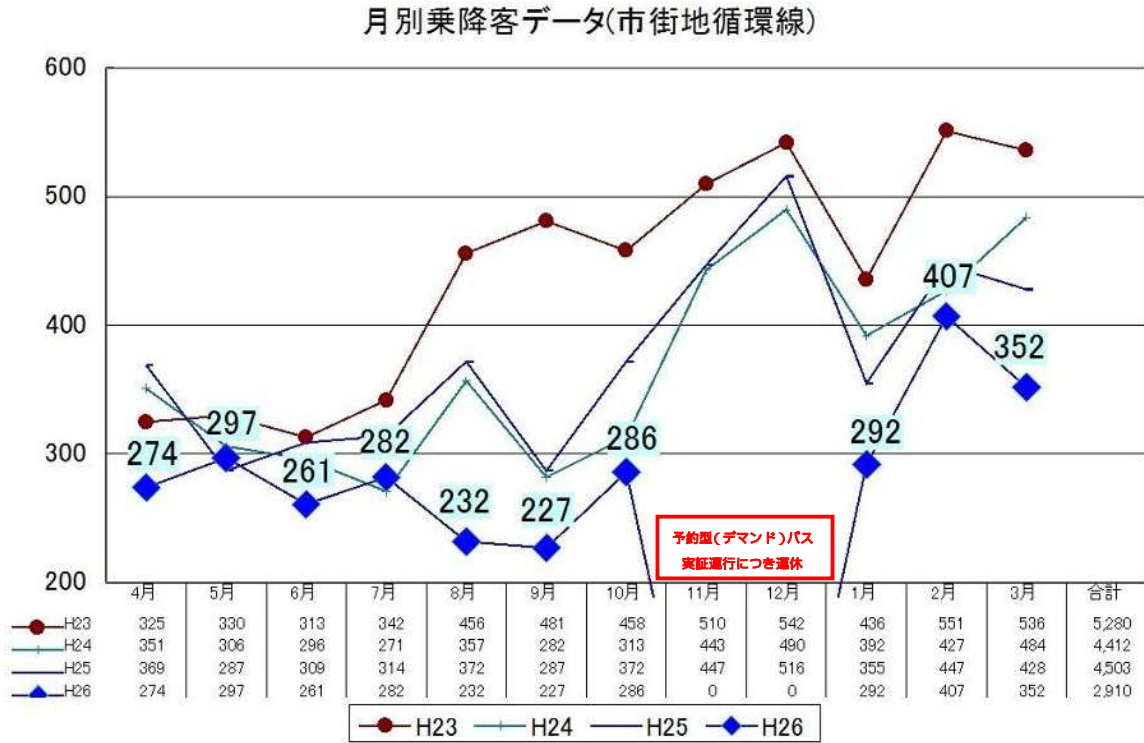


図 3-2 月別利用者推移

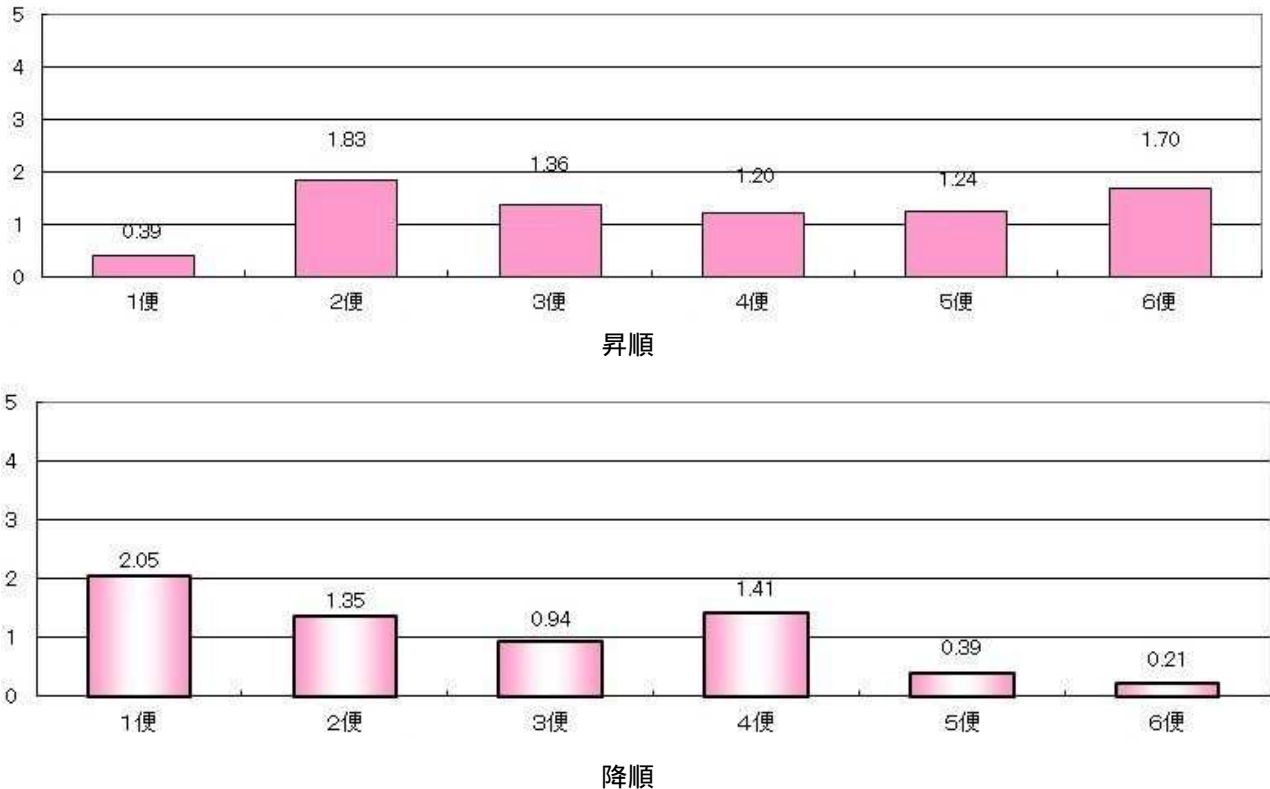
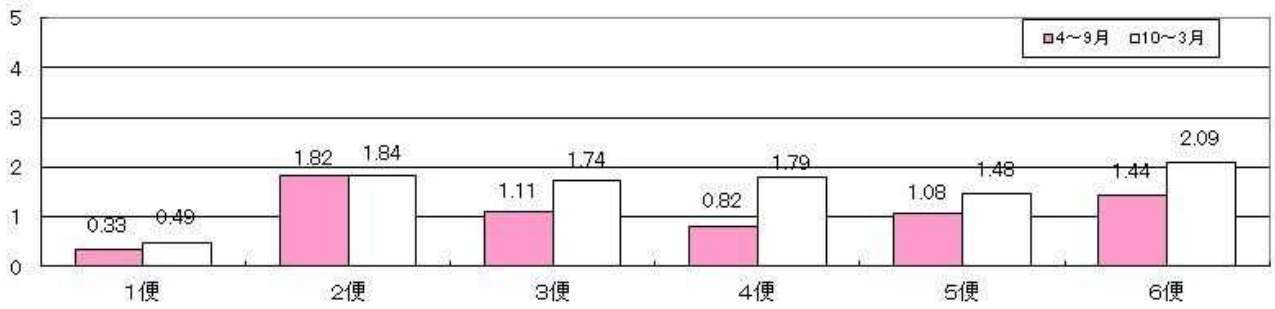
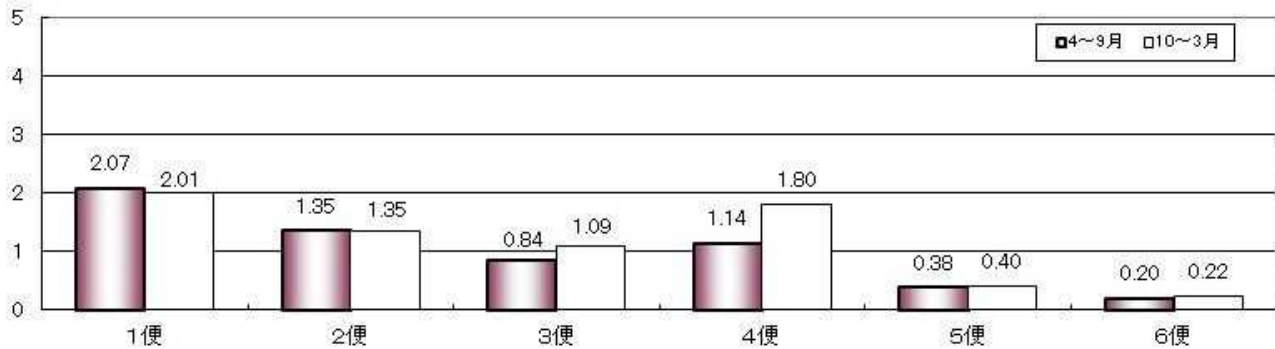


図 3-3 市街地循環線各便 1 日当たりの平均利用者数

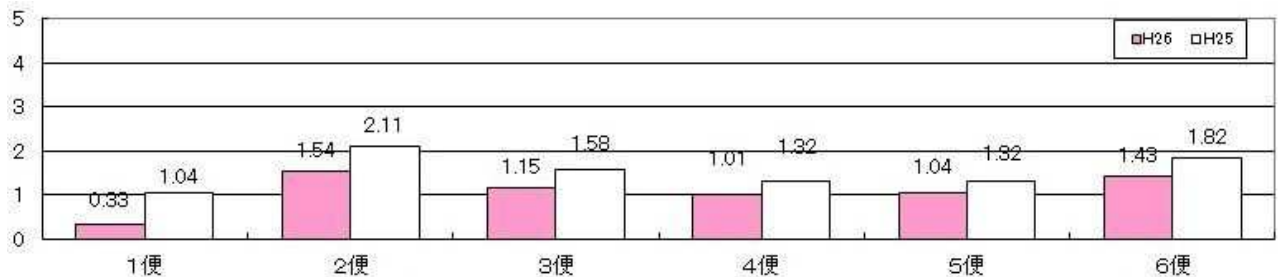


昇順

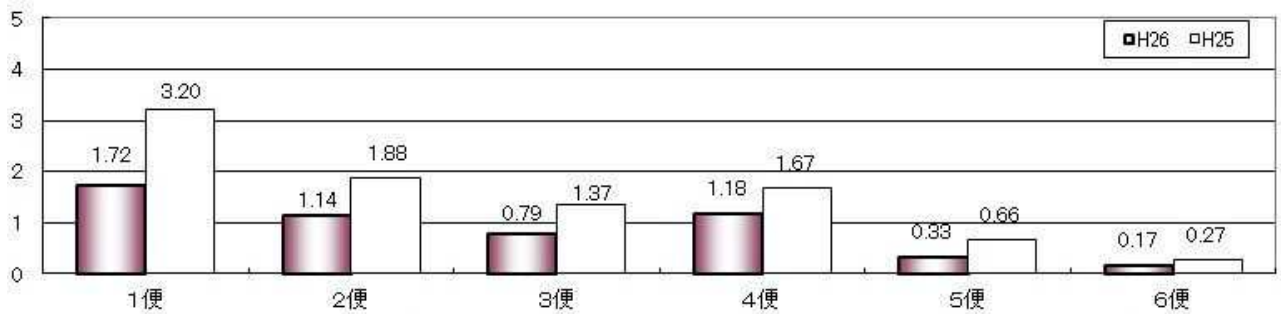


降順

図 3-4 市街地循環線各便 1 日当たりの平均利用者数（夏季と冬季の比較）



昇順



降順

図 3-5 市街地循環線各便 1 日当たり平均利用者数（H26 と H25 の比較）

(3) あいの里金沢線(旧金沢線)の推移

平成26年度は、平成25年度の利用者数を約1,900人上回った。

学生の利用が多いため、長期休暇に入る8月、3月の利用者が顕著に少ない。

月別乗降客データ(あいの里金沢線)【旧金沢線】

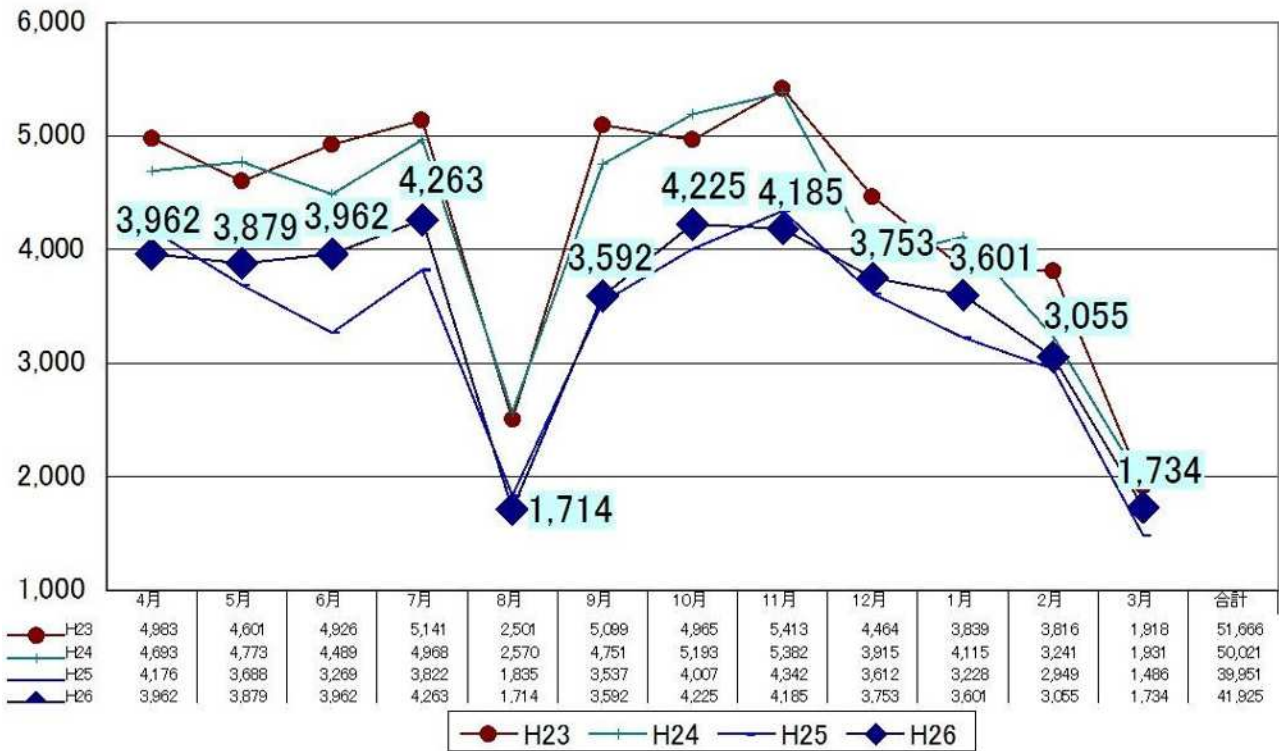


図 3-6 月別利用者推移

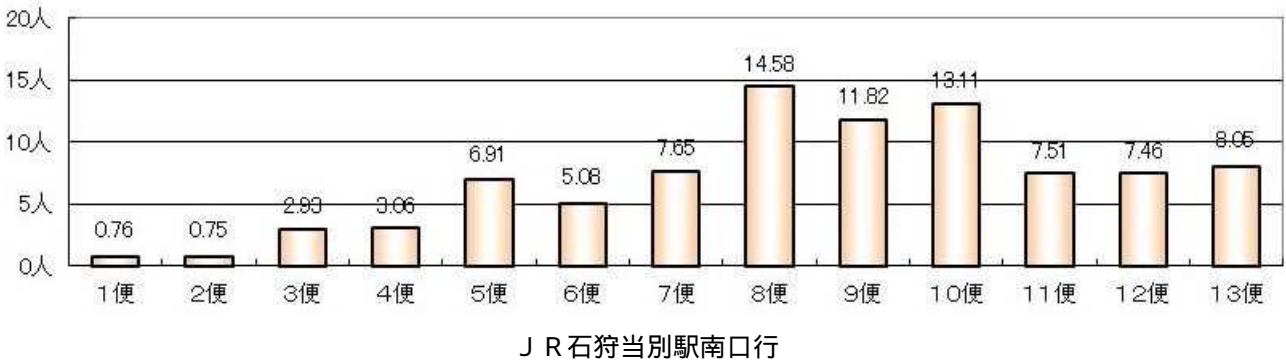
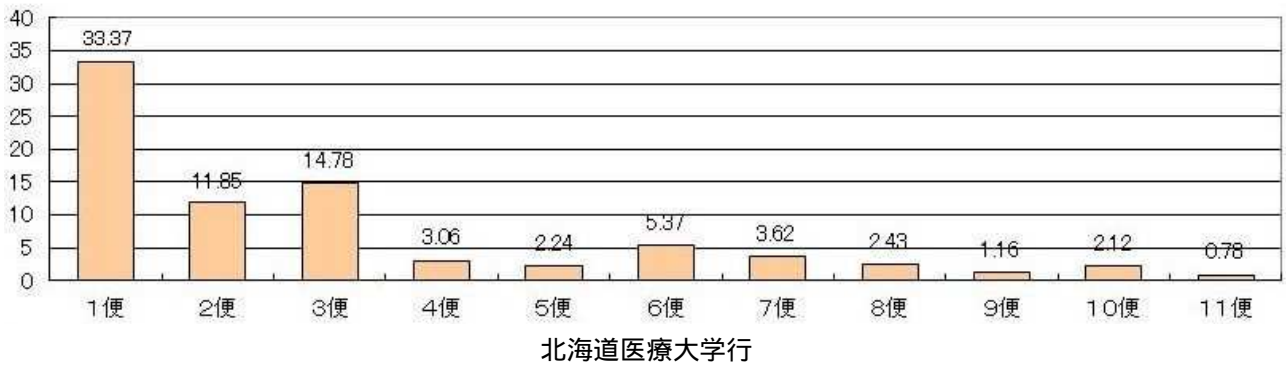


図 3-7 各便 1 日当たりの平均利用者数

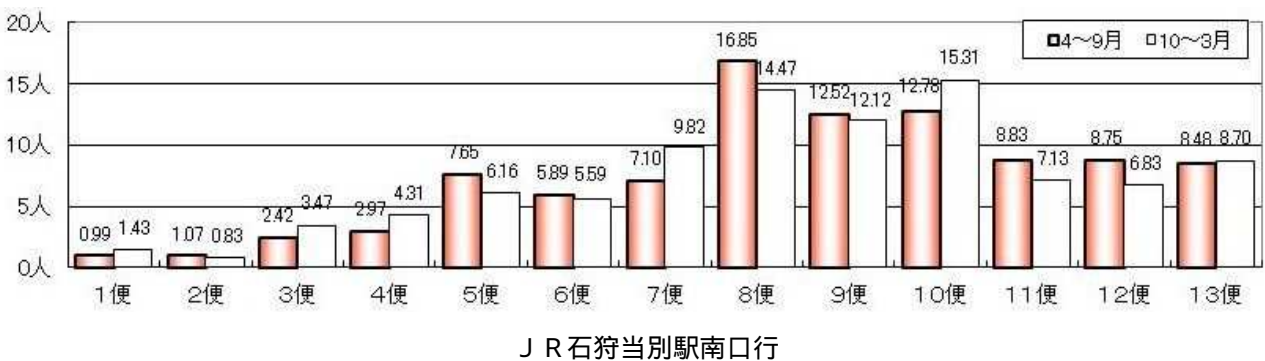
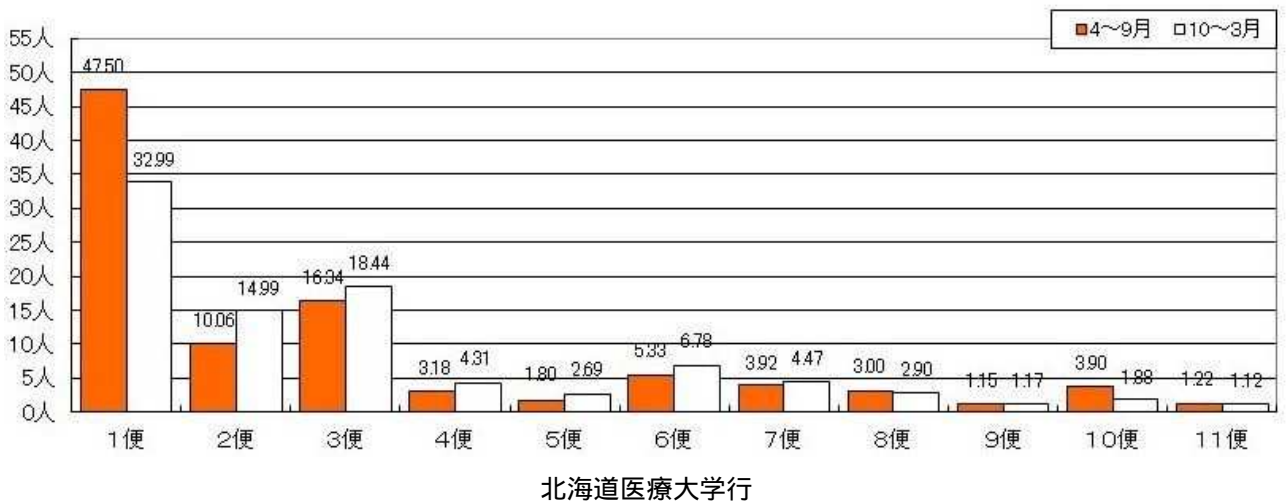
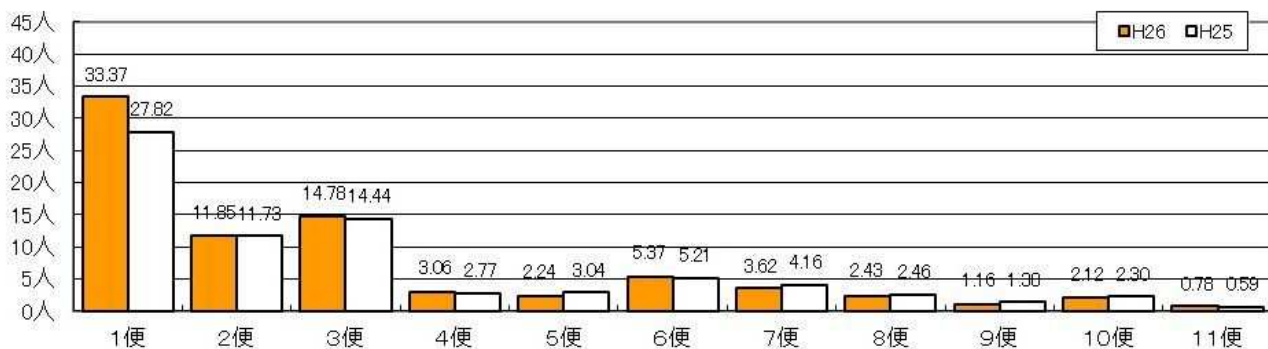
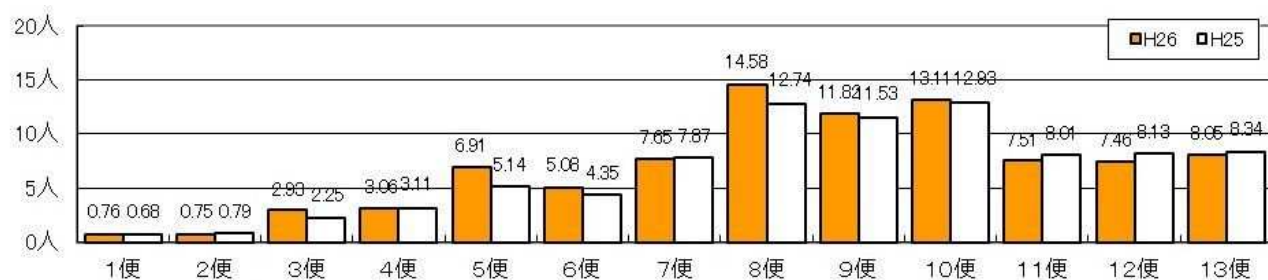


図 3-8 各便 1 日当たりの平均利用者数（夏季と冬季の比較）



北海道医療大学行



J R 石狩当別駅南口行

図 3-9 金沢線各便 1 日あたり平均利用者数 (H26 と H25 の比較)

(4) あいの里金沢線(旧西当別・あいの里線)の推移

平成26年度は、平成25年度の利用者数を上回り、約1,400人の増加となった。北海道医療大学に通学する学生が通学時の混雑を避けて座席に座るため、乗車するバス停が西当別・あいの里線である当別消防署や田西会館から乗車する傾向にある。

月別乗降客データ(あいの里金沢線)【旧西当別・あいの里線】

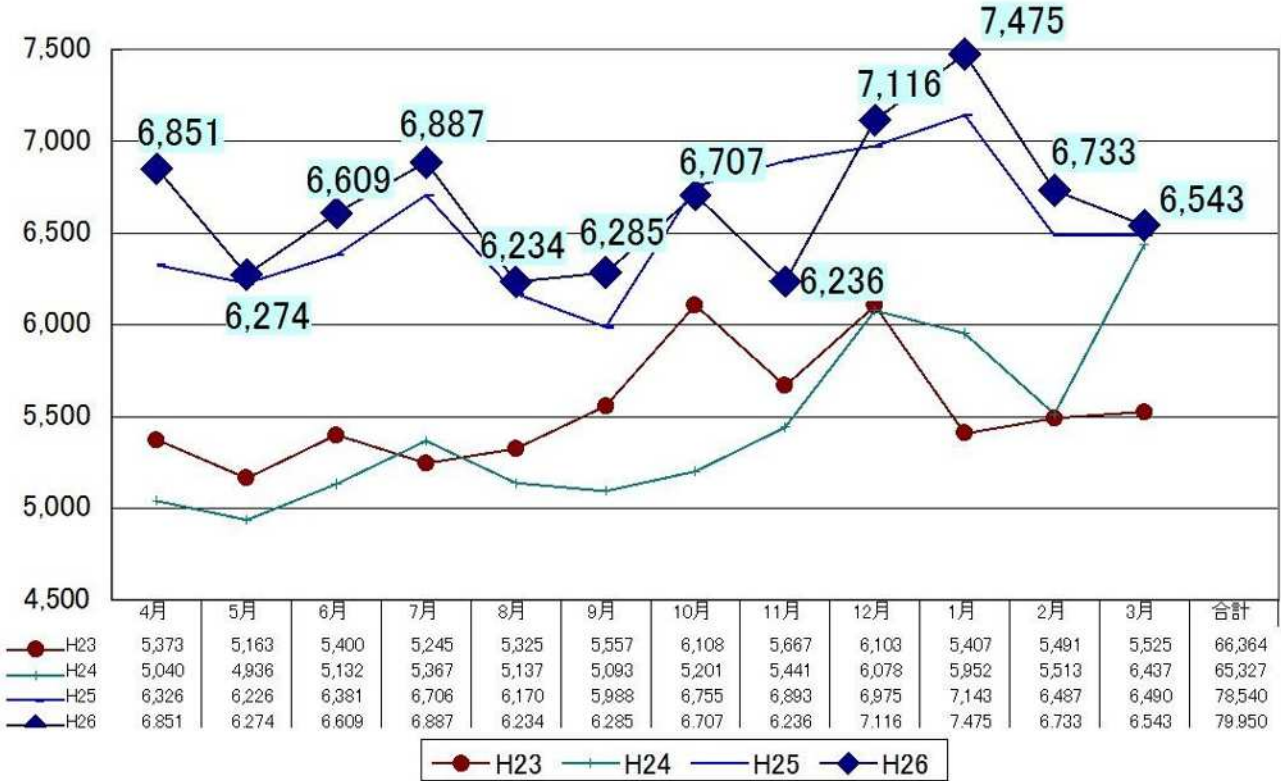
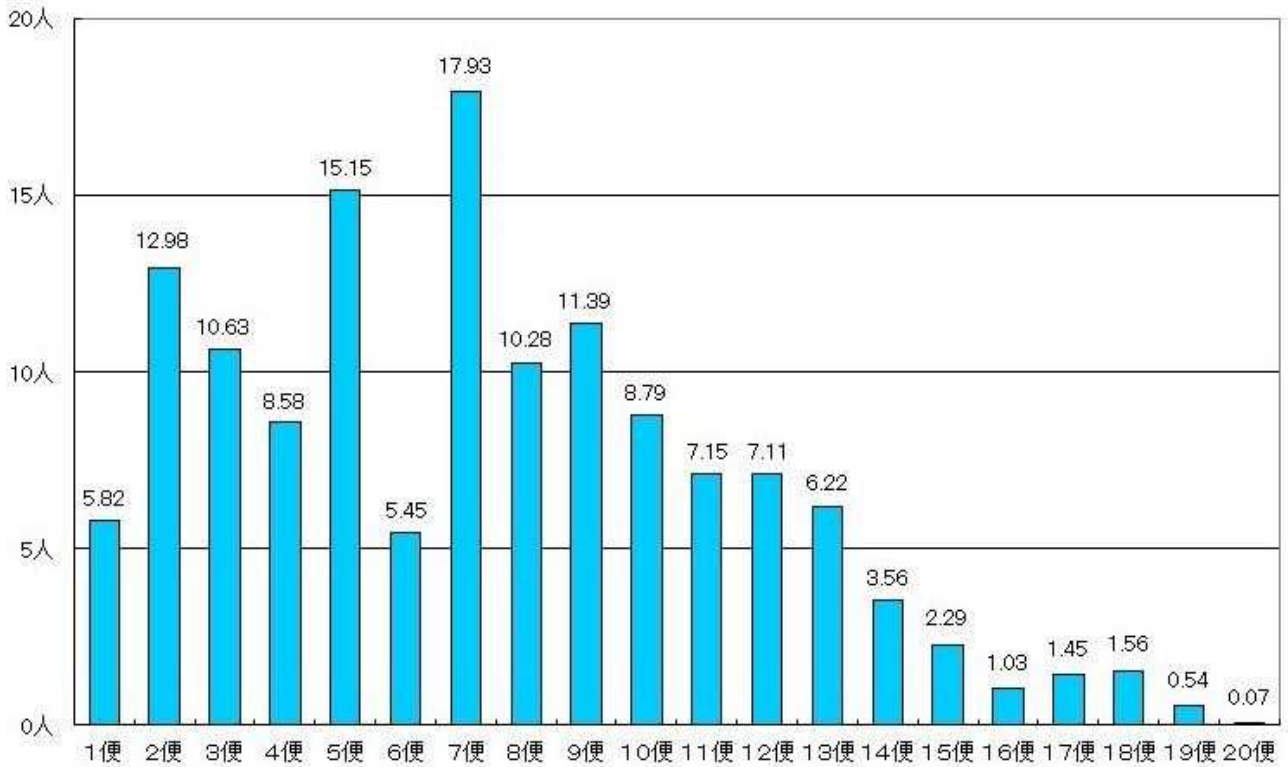
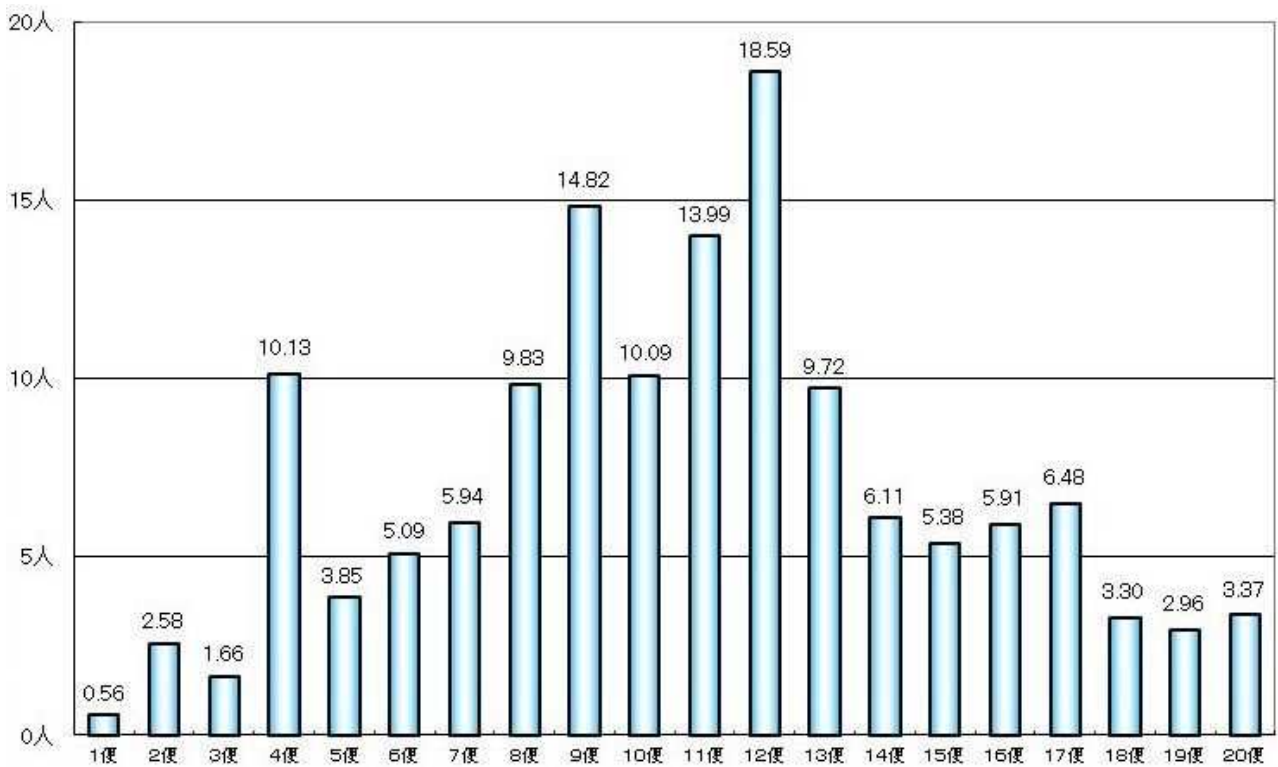


図 3-10 月別利用者推移

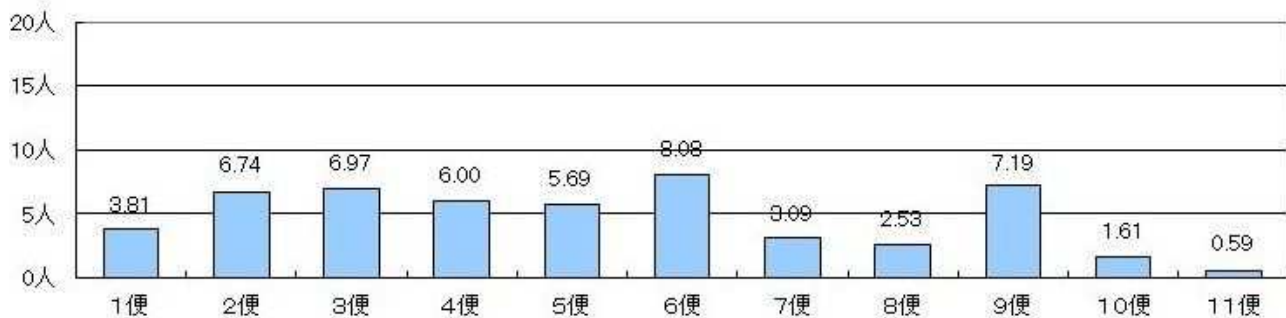


J R 石狩太美駅、ロイズふと美工場、あいの里キャンパス行

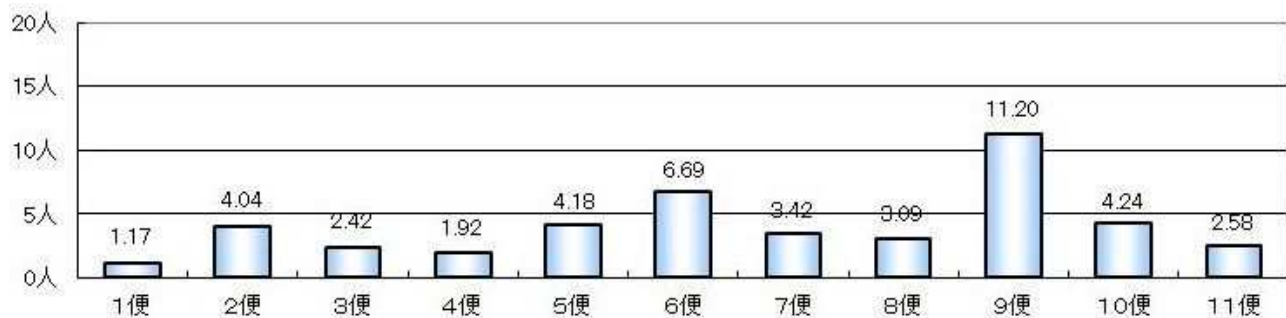


J R 石狩当別駅南口行

図 3-11 平日各便 1 日当たりの平均利用者数

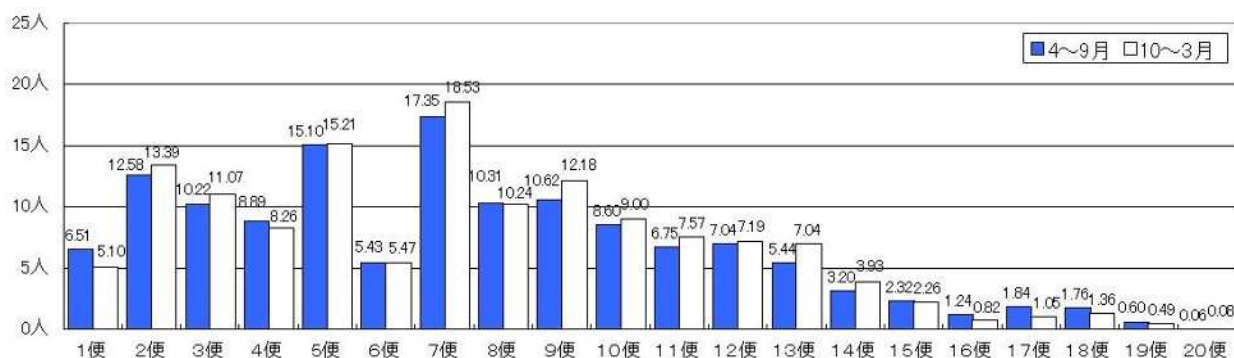


J R 石狩太美駅、ロイズふと美工場行

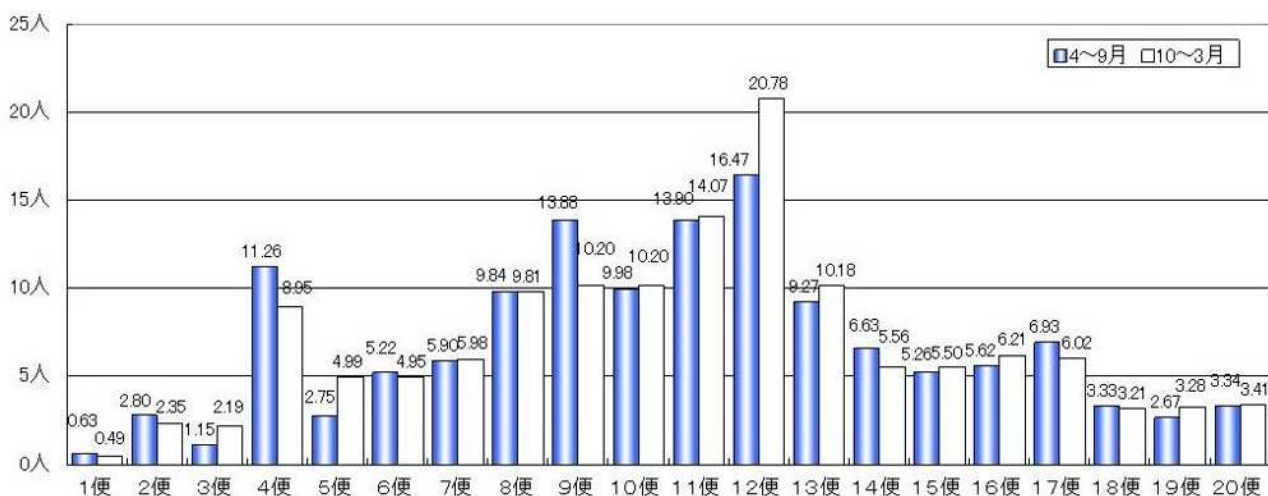


J R 石狩当別駅南口行

図 3-12 土日祝日各便 1 日当たりの平均利用者数



J R 石狩太美駅、ロイズふと美工場、あいの里キャンパス行



J R 石狩当別駅南口行

図 3-13 平日各便 1 日当たりの平均利用者数（夏季と冬季の比較）

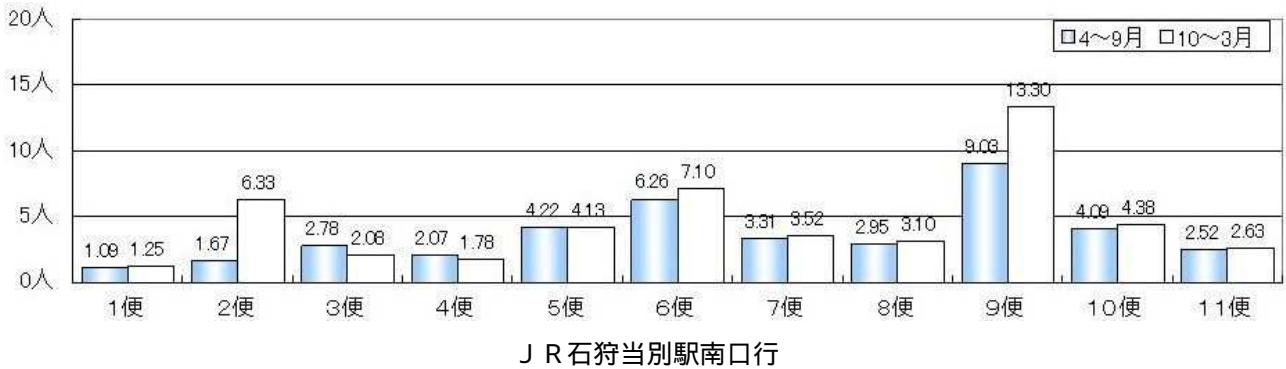
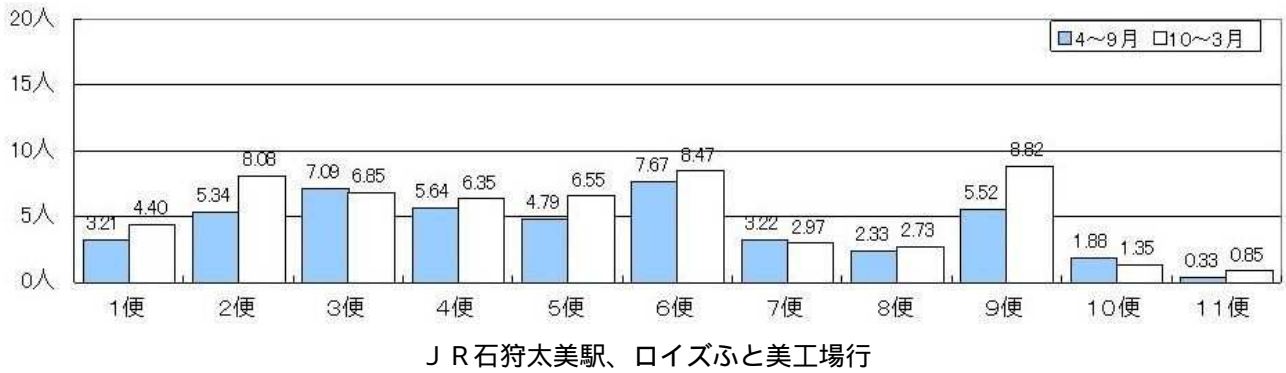


図 3-14 土日祝日各便 1 日当たりの平均利用者数（夏季と冬季の比較）

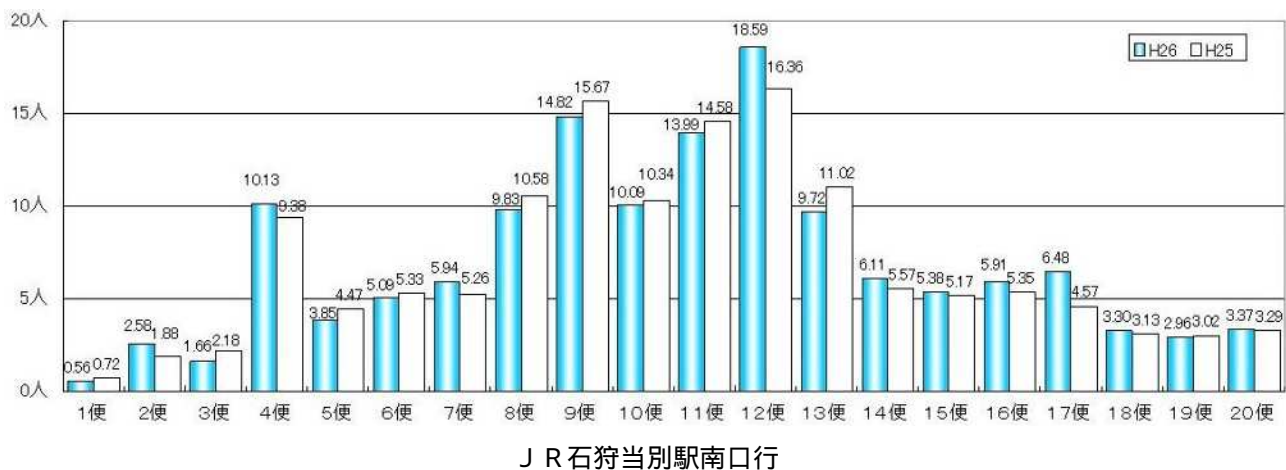
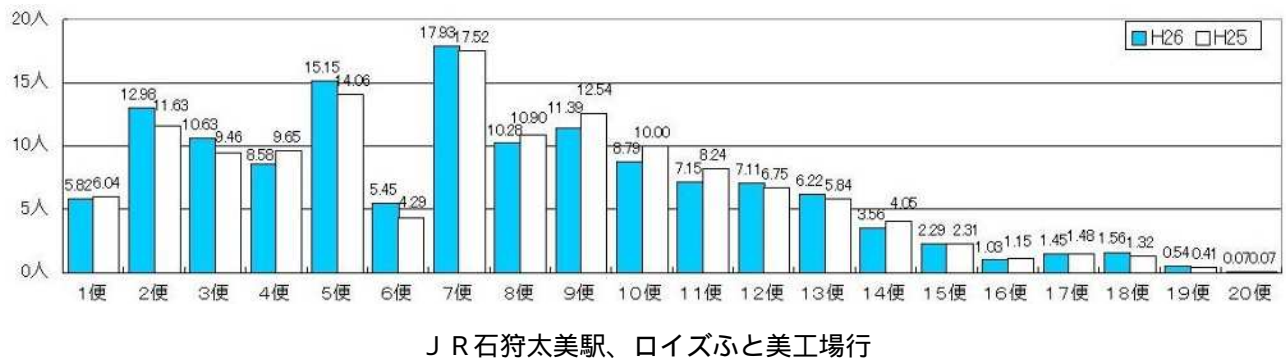
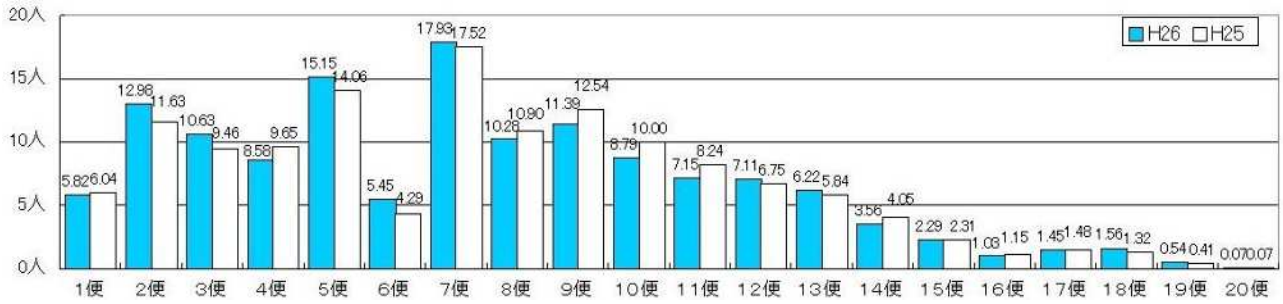
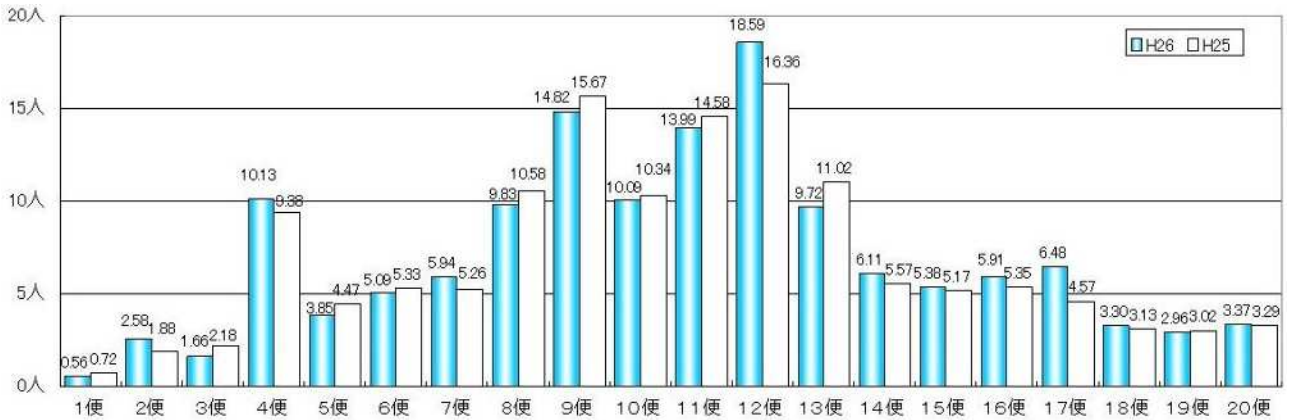


図 3-15 平日各便 1 日当たりの平均利用者数（H26 と H25 の比較）



J R 石狩太美駅、ロイズふと美工場行



J R 石狩当別駅南口行

図 3-16 土日祝日各便 1 日当たりの平均利用者数 (H26 と H25 の比較)

(5) 青山線の推移

青山線は年々減少しており、平成 26 年度においても平成 25 年度の利用者数を下回った。
 JR 石狩当別駅南口行は午前中の利用が多く、青山会館行きは午後の利用が多い。

月別乗降客データ(青山線)

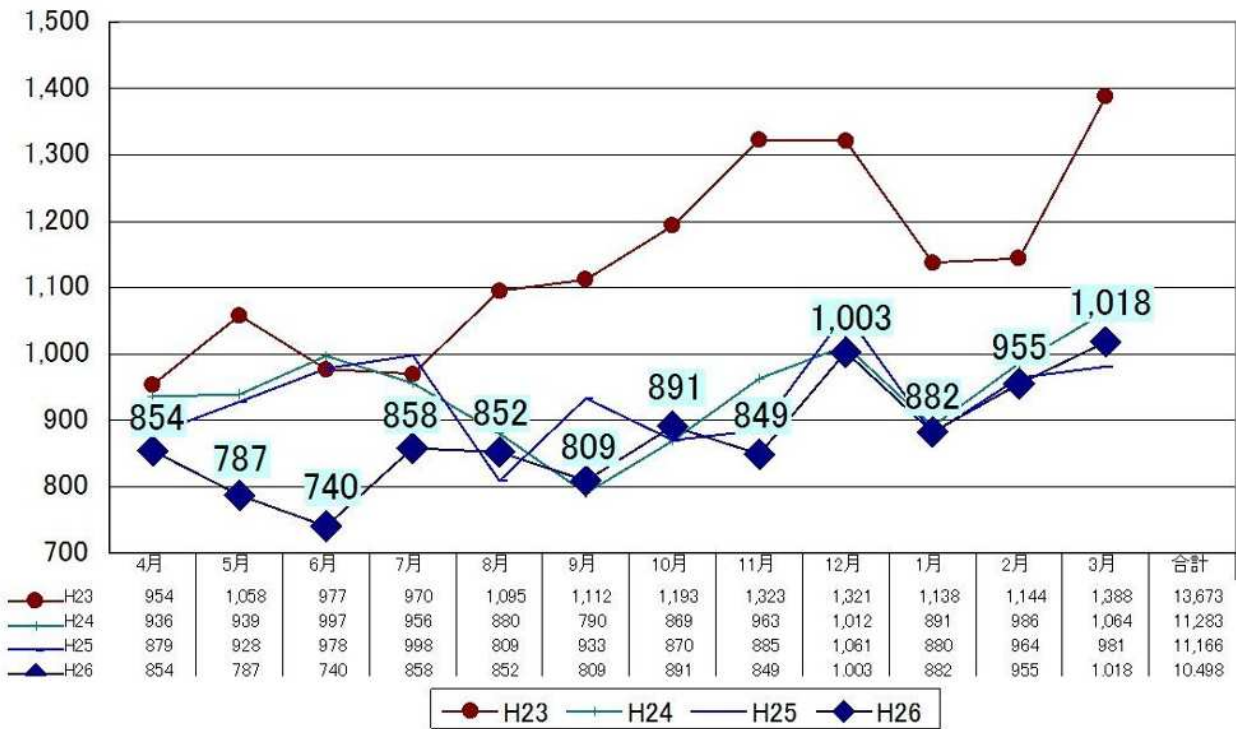


図 3-17 月別利用者推移

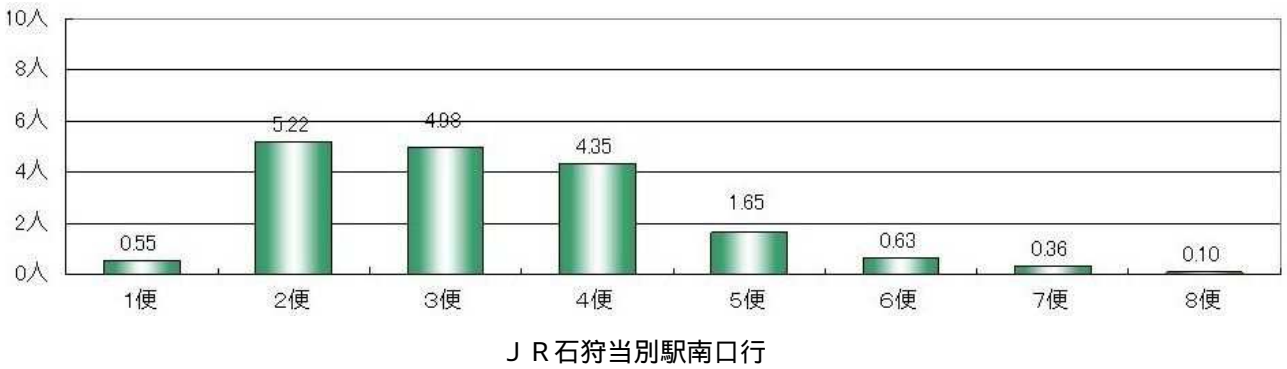
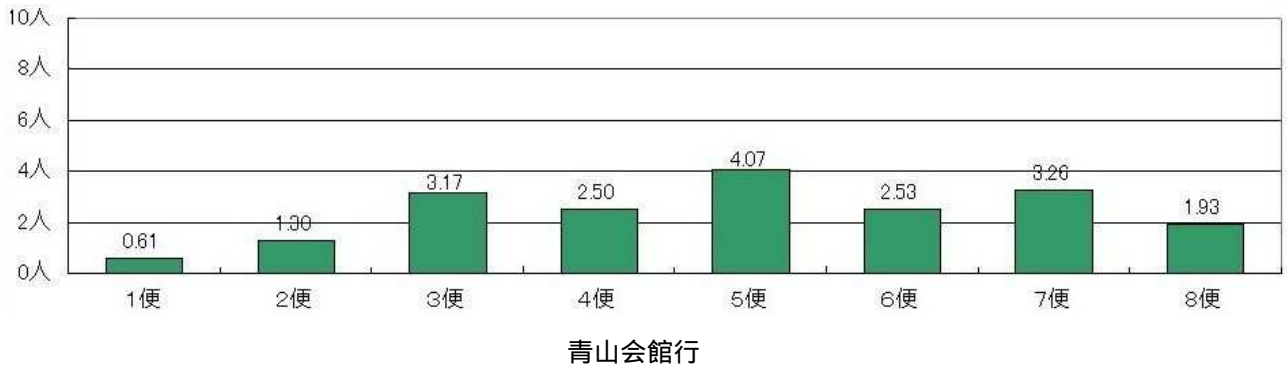
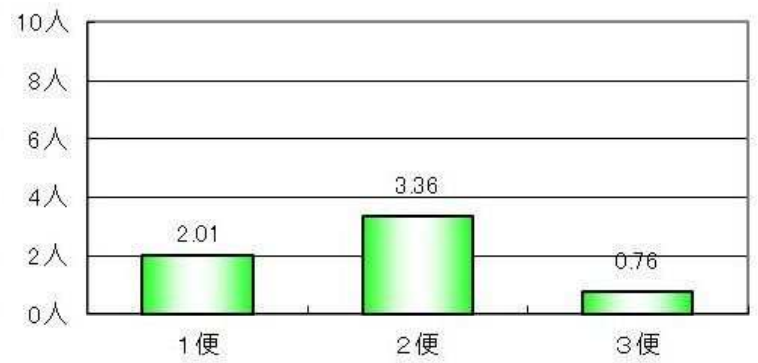
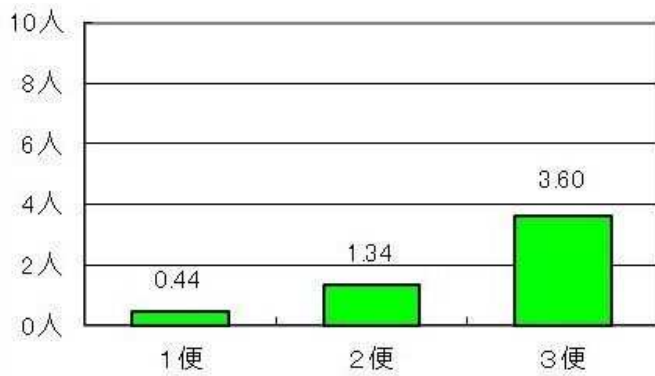


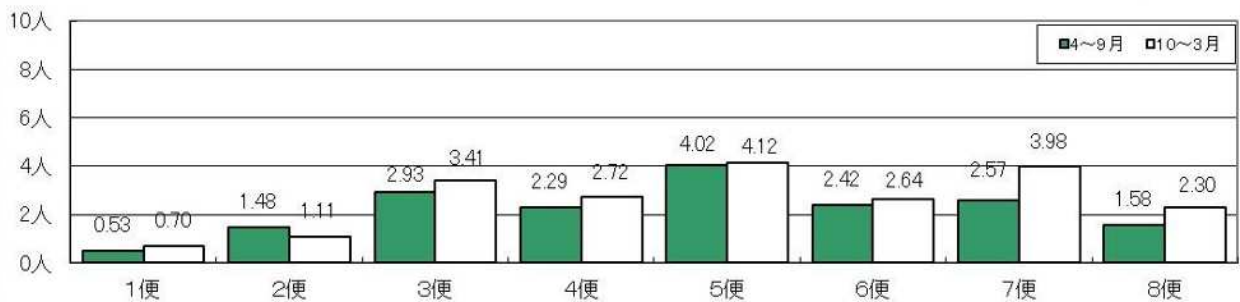
図 3-18 平日各便 1 日当たりの平均利用者数



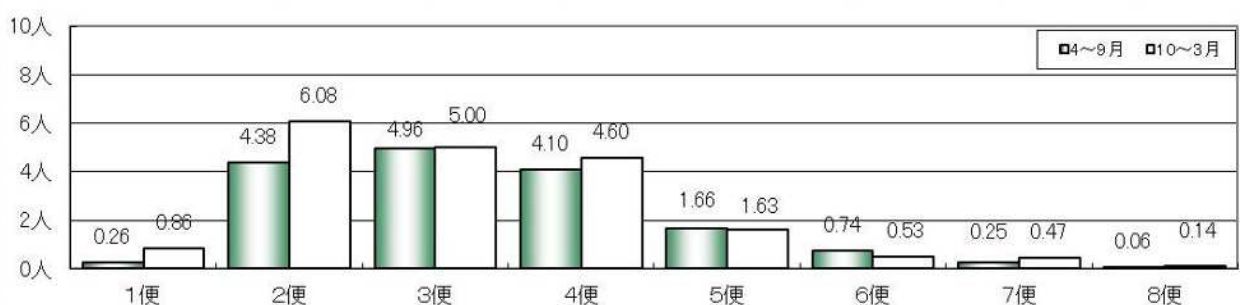
青山会館行

J R 石狩当別駅南口行

図 3-19 土日祝日各便 1 日当たりの平均利用者数

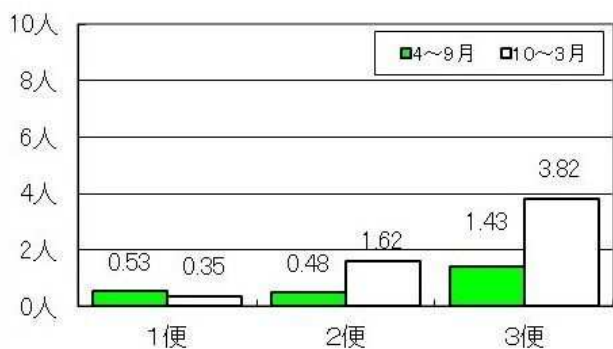


青山会館行

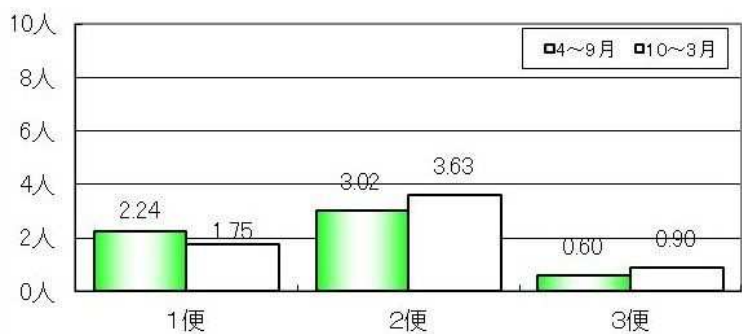


J R 石狩当別駅南口行

図 3-20 平日各便 1 日当たりの平均利用者数（夏季と冬季の比較）

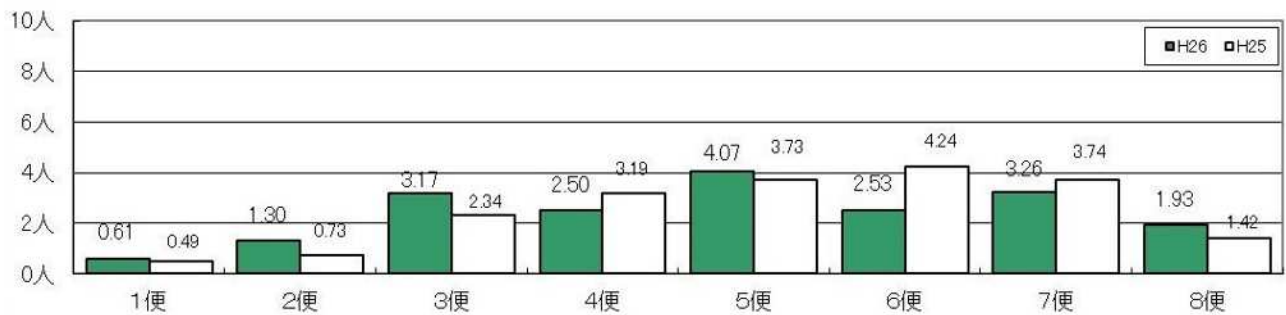


青山会館行

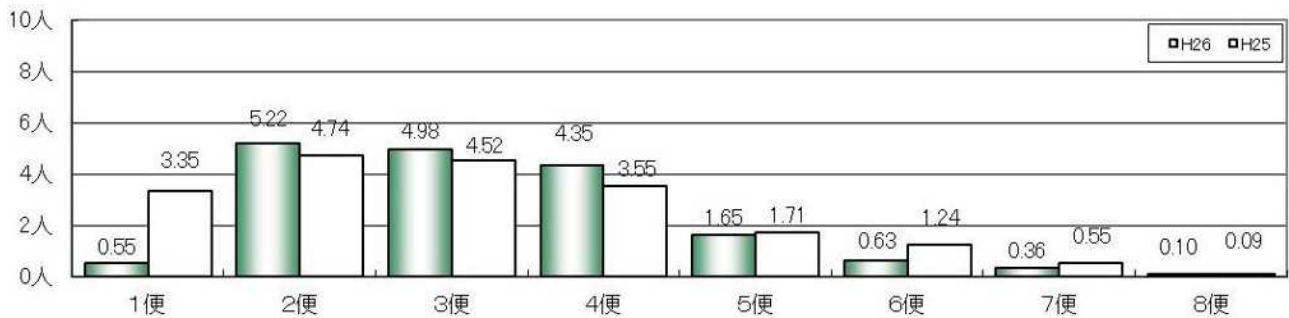


J R 石狩当別駅南口行

図 3-21 土日祝日各便 1 日当たりの平均利用者数（夏季と冬季の比較）

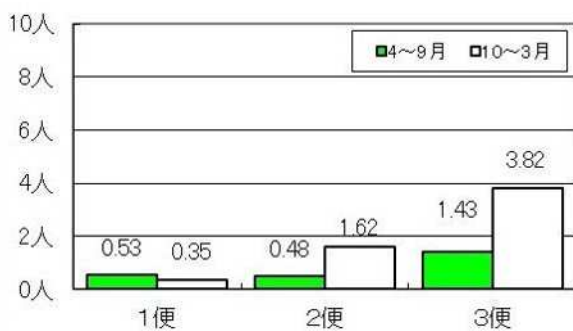


青山会館行

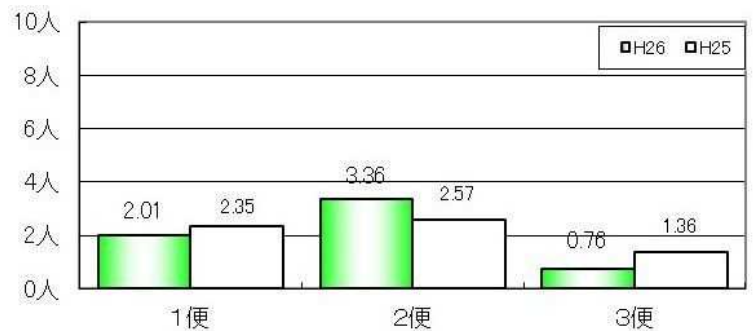


J R 石狩当別駅南口行

図 3-22 平日各便 1 日当たりの平均利用者数 (H26 と H25 の比較)



青山会館行



J R 石狩当別駅南口行

図 3-23 土日祝日各便 1 日当たりの平均利用者数 (H26 と H25 の比較)

(6) 予約型(デマンド)バスの実証運行利用実績

平成26年11~12月の2ヵ月間の期間で、市街地循環線を運休させ、予約型(デマンド)バスの実証運行を実施した。

予約型(デマンド)バスの実績

期間：平成26年11月4日~平成26年12月30日

運行日数	39 / 39 (日)
運行回数	171 / 312 (回)
利用者数	265 (人)
日平均利用者数 【 / 】	6.79 (人/日)
便平均利用者数 【 / 】	1.55 (人/便)
運行収入	10,800円

【参考】市街地循環線の実績

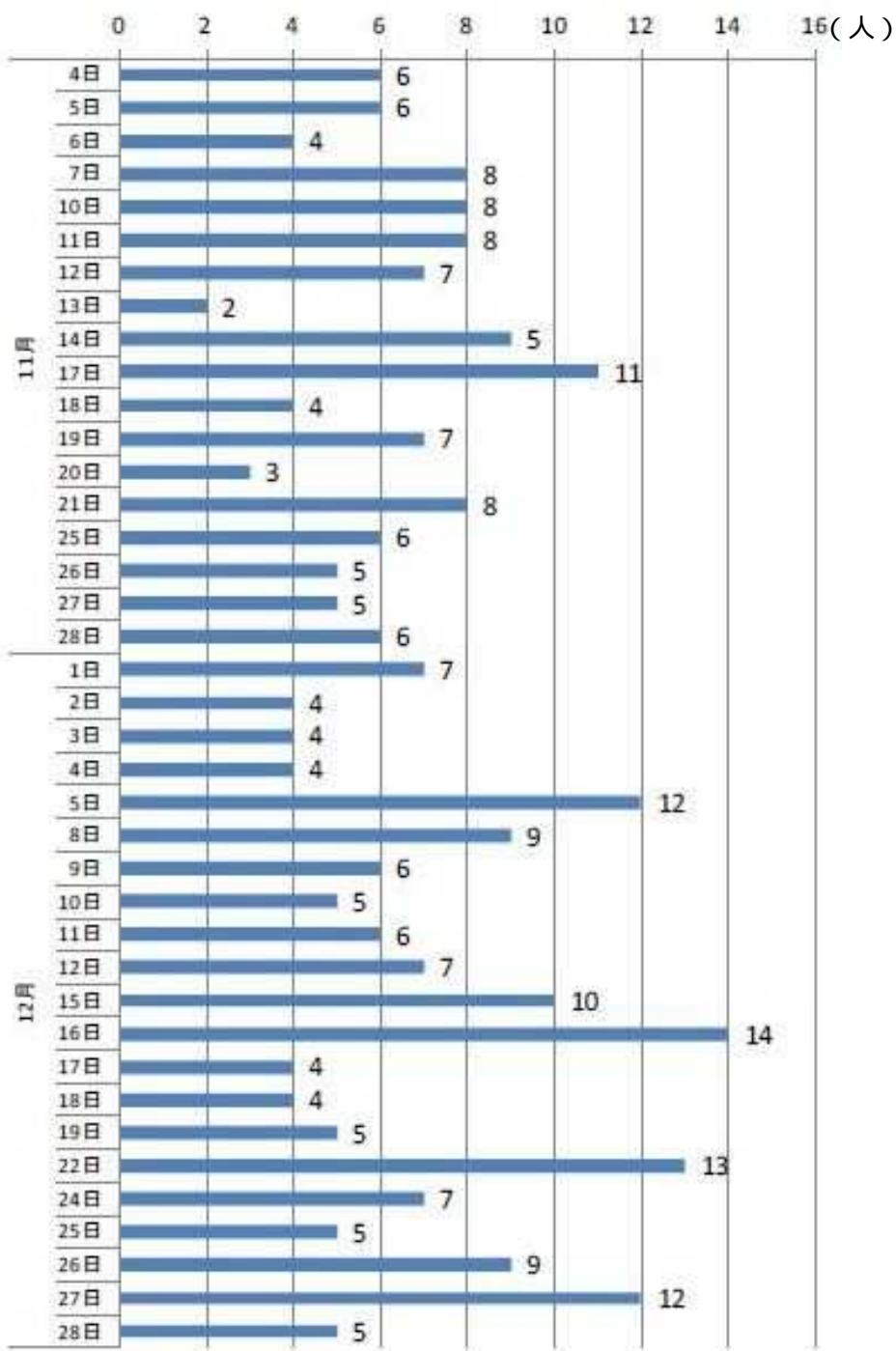
期間：平成26年4月1日~平成27年3月31日

(平成26年11~12月の2ヶ月を除く)

運行日数	207 / 207 (日)
運行回数	2,484 / 2,484 (回)
利用者数	2,910 (人)
日平均利用者数 【 / 】	14.06 (人/日)
便平均利用者数 【 / 】	1.17 (人/便)

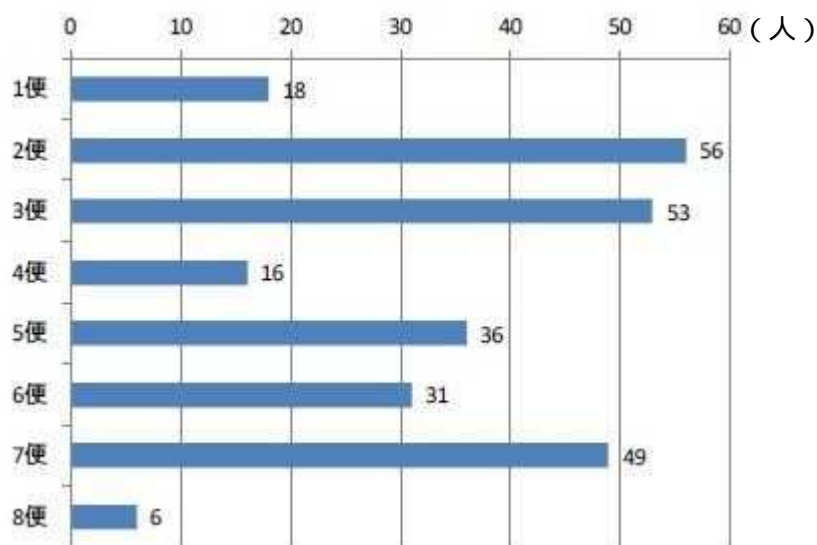
日別利用者数

認知度の向上及び冬期になり自転車利用が減少したこと等が起因し、11月よりも12月の利用者が多くなったと考えられる。また、最も利用が多かった日の利用者は、14人であった。



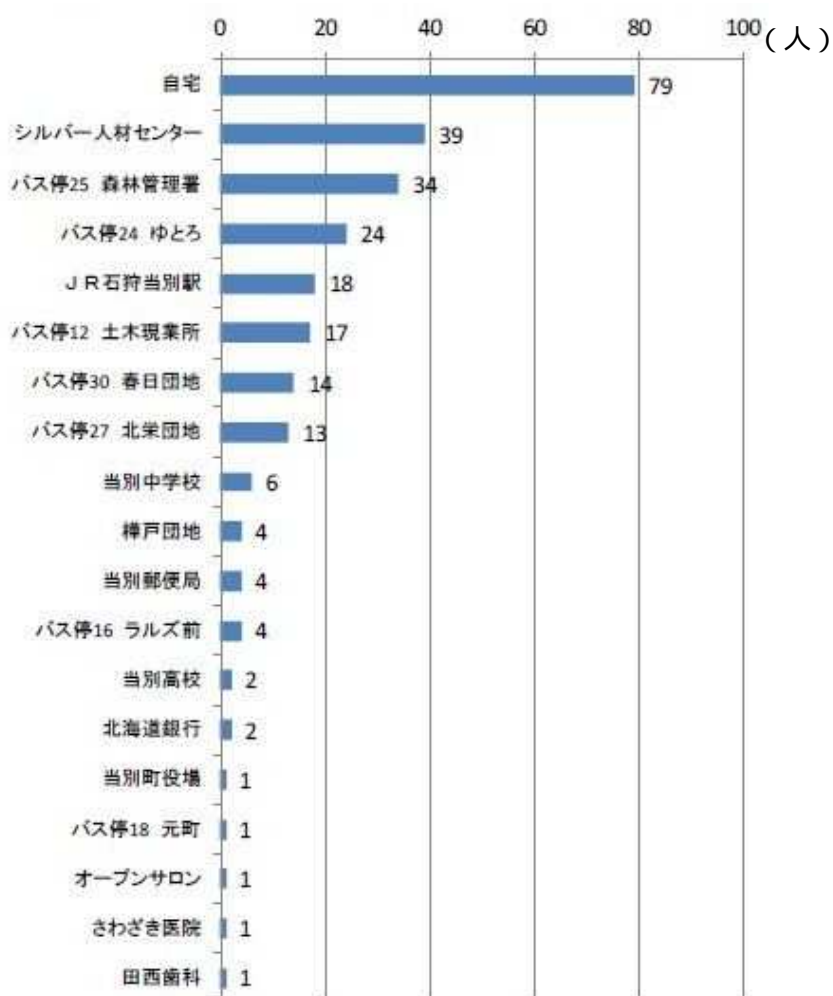
便別利用者数

最も利用が多い便は、2便の56人であり、次いで、3便が53人、7便が49人という順位で続いている。一方、利用者が少ない便は、1便の18人と4便の16人と8便の6人であった。



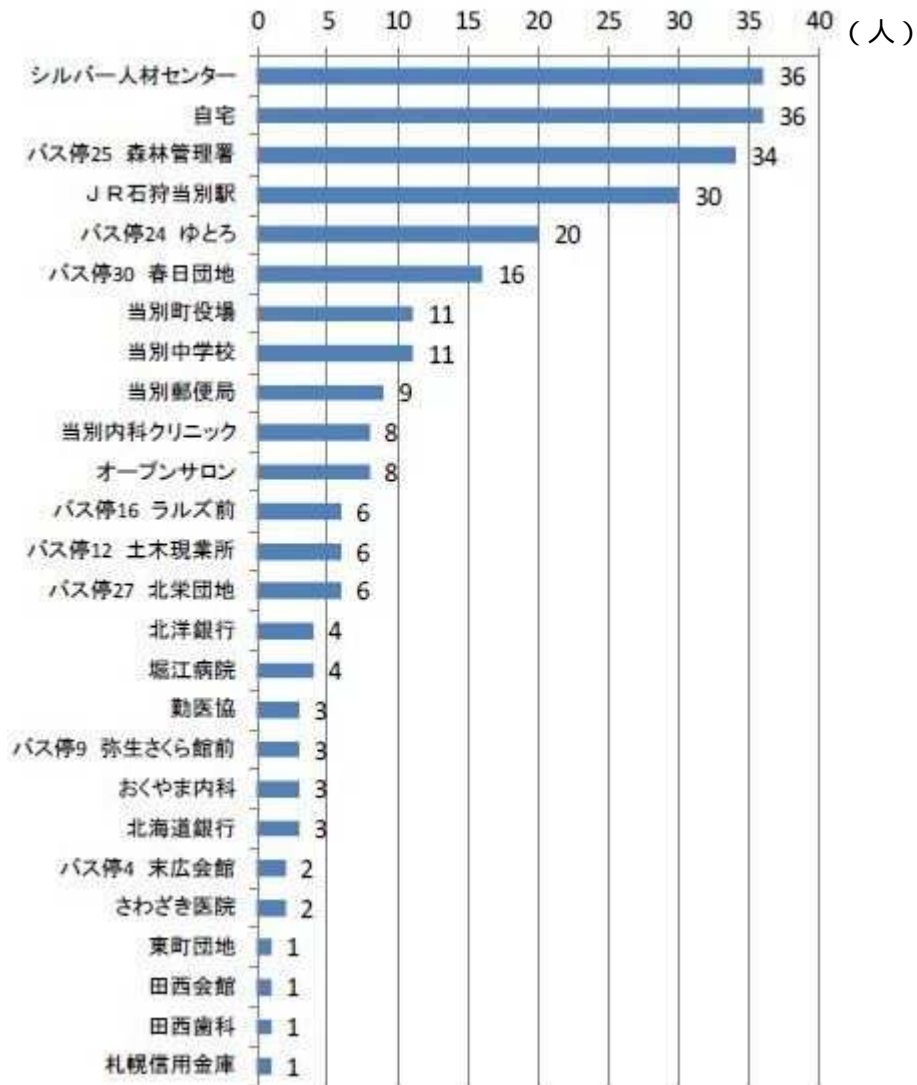
乗車場所

乗車場所としては、自宅が79人と最も多く、次いで、シルバー人材センターの39人、バス停25 森林管理署の34人という順位となった。



降車場所

降車場所としては、シルバー人材センター及び自宅が36人、バス停25 森林管理署の34人という順位となった。

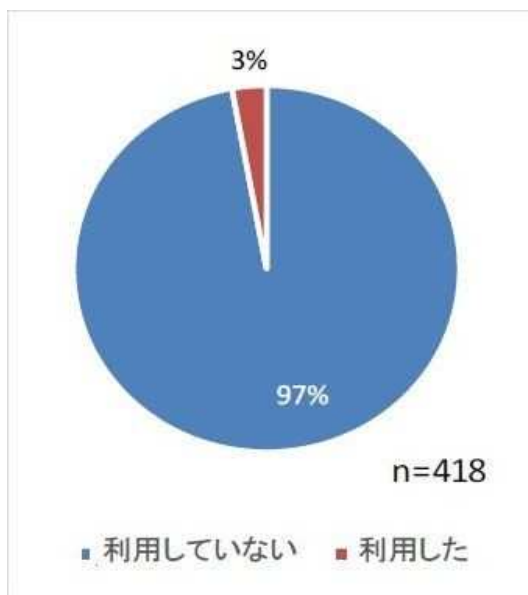


運行エリアの住民及び利用者アンケート

実証運行後に運行エリアの住民及び利用者アンケートを実施した。

運行エリアの住民へのアンケート結果

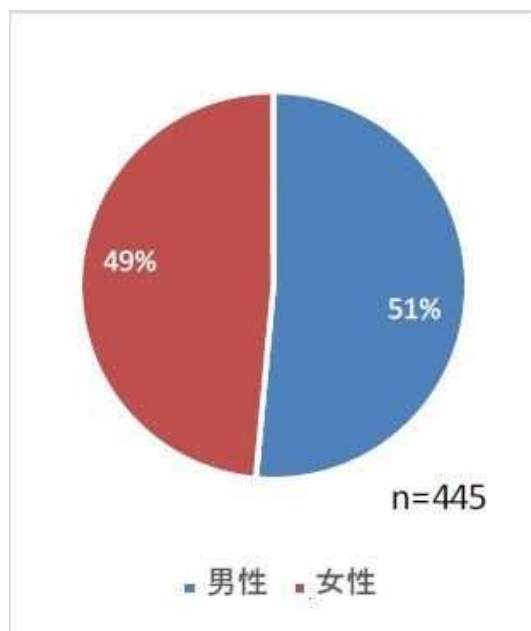
設問1 試験運行期間中、予約型バスを利用しましたか？



試験運行期間中に予約型バスを利用した運行エリアの住民は、全体の3%だった。

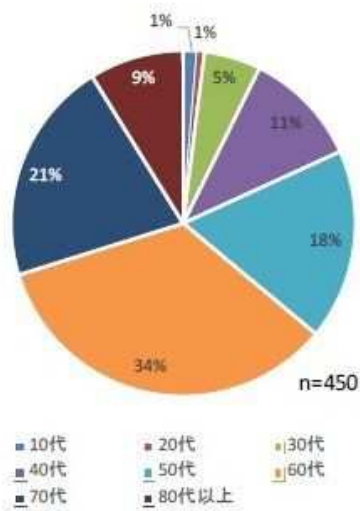
左図：予約型バスの利用経験

設問2 あなた自身のことについてお伺いします。



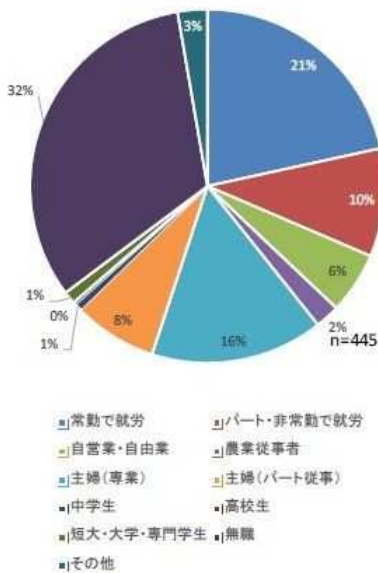
回答者の性別は、概ね男性・女性共に、半数程度である。

左図：回答者の性別



回答者の年齢は、「60代」が34%と最も高い割合であり、次いで、「70代」が21%と高い。また、「60代」以上の回答者で全体の6割以上を占めている。

左図：回答者の年齢



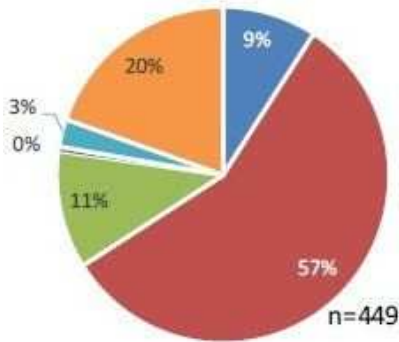
回答者の職業は、「無職」が32%と最も高い割合であり、次いで、「常勤で就労」の21%、「主婦(専業)」の16%と高い。

左図：回答者の職業



回答者の世帯構成は、「配偶者のみ」が41%と最も高く、次いで、「親子」の35%、「単身」の18%という順位になっている。

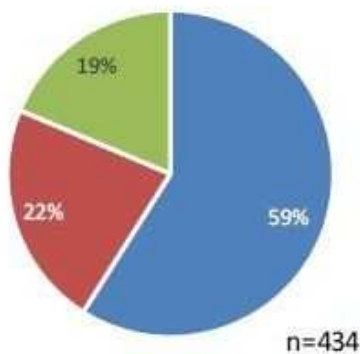
左図：回答者の世帯構成



- 所有(種別不明)
- 普通免許
- 普通免許、自動二輪
- 原付免許
- 以前持っていた
- 持っていない

回答者の運転免許保有状況は、約 8 割の方が「免許を保有」し、「免許を保有していない」回答者は、全体の 20%である。また、「以前持っていた」と回答した回答者は、9%であった。

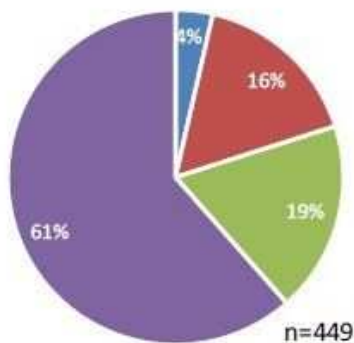
左図：回答者の運転免許保有状況



- ほぼ自分専用の車がある
- 家族共用の車がある
- ない

回答者の所有する自動車は、「ほぼ自分専用の車がある」の 59%と高く、「家族共用の車がある」の 22%である。また、「世帯に自動車がない世帯」は、全体の 19%にあたる。

左図：回答者の所有する自動車

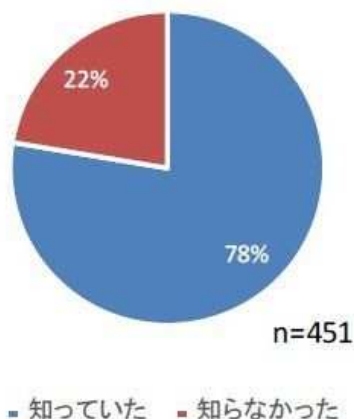


- 日常的に利用
- たまに利用
- あまり利用していない
- 全く利用したことがない

回答者の市街地循環線利用については、「全く利用したことがない」の 61%が最も高い。一方、「日常的に利用している」回答者は、全体の 4%である。

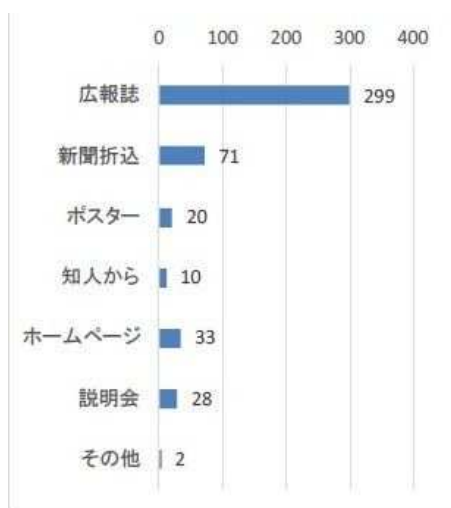
左図：市街地循環線の利用状況

設問3 市街地循環線にかわる予約型（デマンド）バスの試験運行についてお伺いします。



予約型バスの認知については、回答者の78%が「知っていた」と回答している。

左図：予約型バスの認知



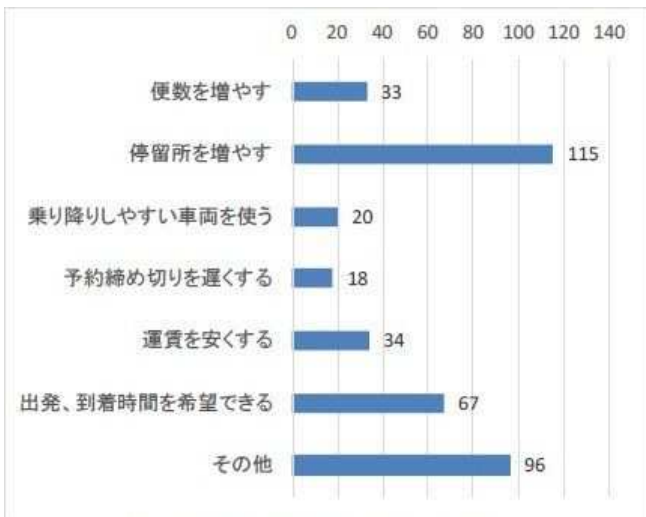
予約型バスの認知経路は、「広報誌」が最も高い299件であり、次いで、「新聞折込」が71件であった。

左図：予約型バスの認知経路



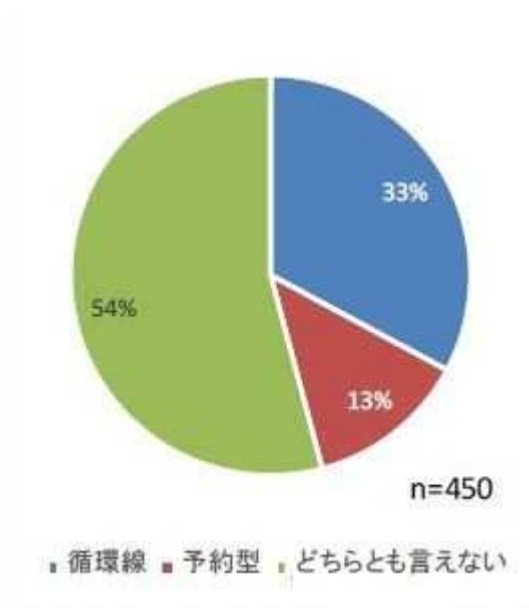
予約型バスを利用しない理由としては、「自分で運転するから」が287件と高く、次いで、「徒歩で移動するから」の154件、「自転車で移動するから」が118件の順位が続いている。一方、予約型バスのサービス面では、「予約が面倒だから」が60件と高い。

左図：予約型バスを利用しない理由



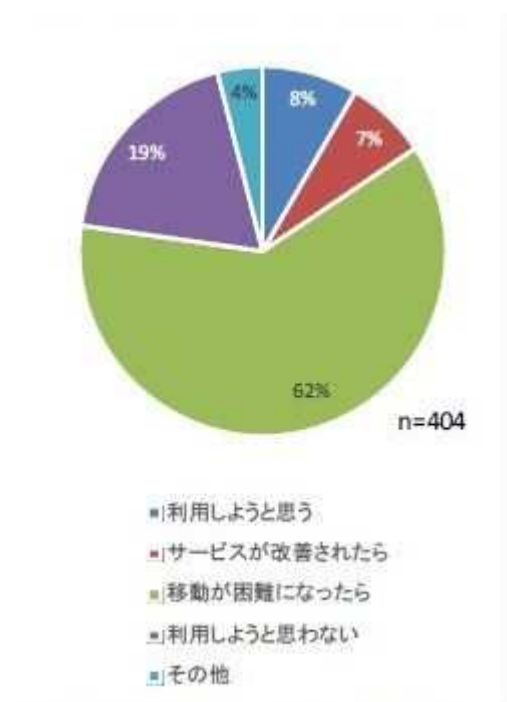
予約型バスの改善点としては、「停留所を増やす」が115件と高く、次いで、「出発、到着時間を希望できる」の67件、「運賃を安くする」の34件という順位となっている。

左図：予約型バスの改善点



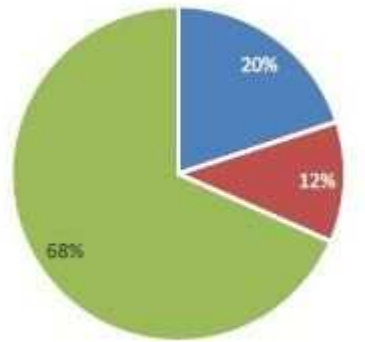
循環線と予約型バスでは、どちらが利用しやすいのかという問いに対して、「どちらとも言えない」が54%と高い。一方、2つの比較では、「循環線の方が利用しやすい」という回答が33%、「予約型バス」が13%と、循環線の方が利用しやすいと考えられている傾向が読み取れる。

左図：循環線と予約型バスで利用しやすい方



予約型バスの本格運行後の利用意向については、「移動が困難になったら利用する」という回答が、62%と最も高い。一方、「利用しようと思う」という積極的な回答は、8%だった。

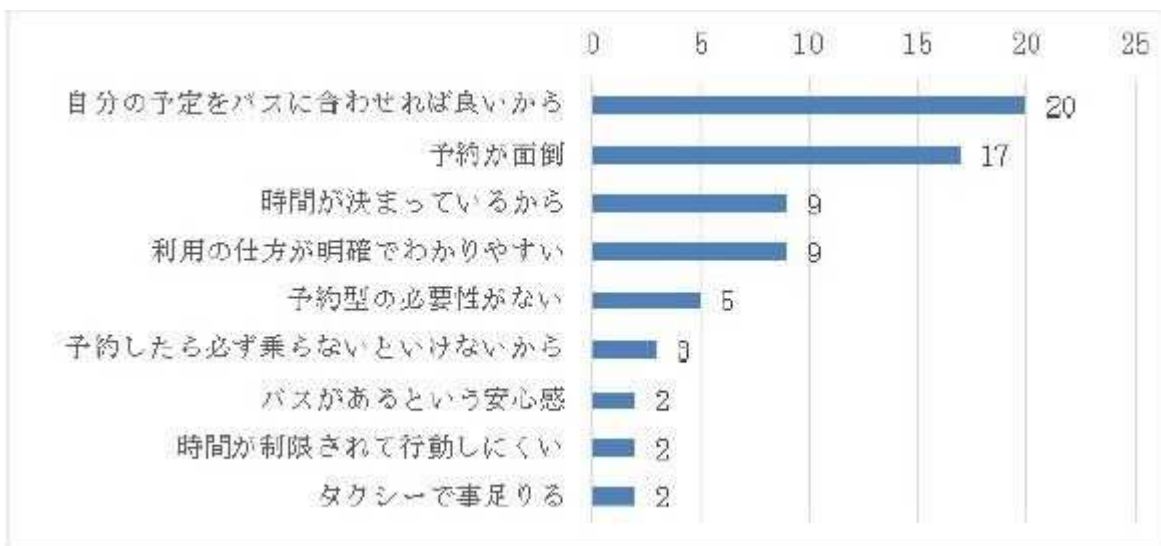
左図：本格運行後の利用意向



運行方法変更への賛否については、「どちらとも言えない」が68%と高いものの、賛成と反対の2者の比較では、賛成が反対を8%上回っている。

左図：運行方法変更への賛否

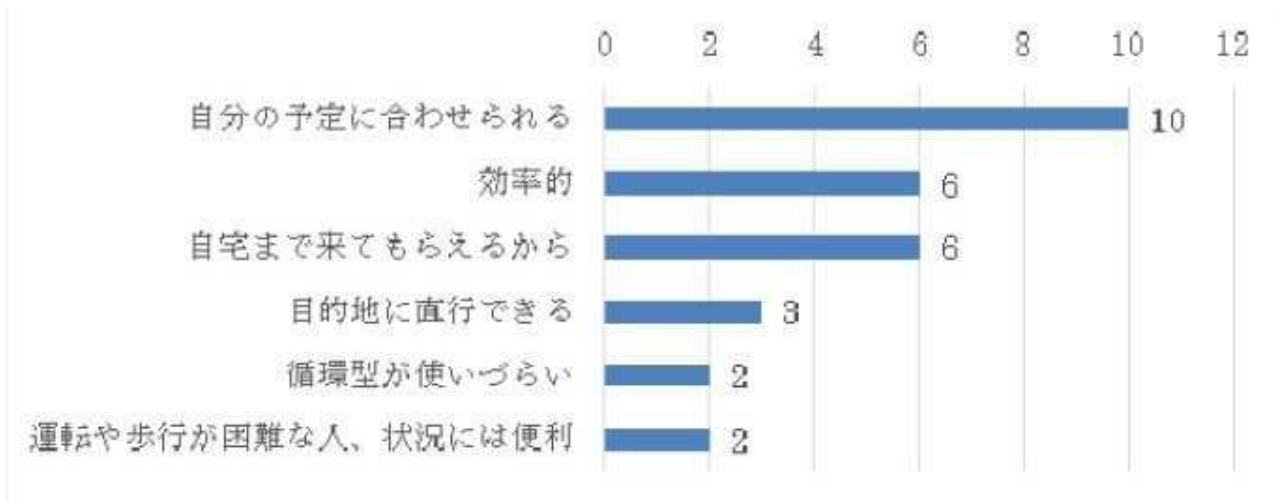
【循環線の方が利用しやすいと選択した理由】



その他意見

- ・循環線のバス停の近くに住んでいるから。
- ・携帯がない
- ・目や耳が不自由になり、予約がしにくい。携帯の番号を押すのに時間がかかり、番号を間違いやすい。
- ・高齢者にとって、予約手続きが煩雑すぎる。
- ・予約の重複によっては、自分の希望時間にバスが来なく、不平等を感じる。
- ・電話が苦手だから。

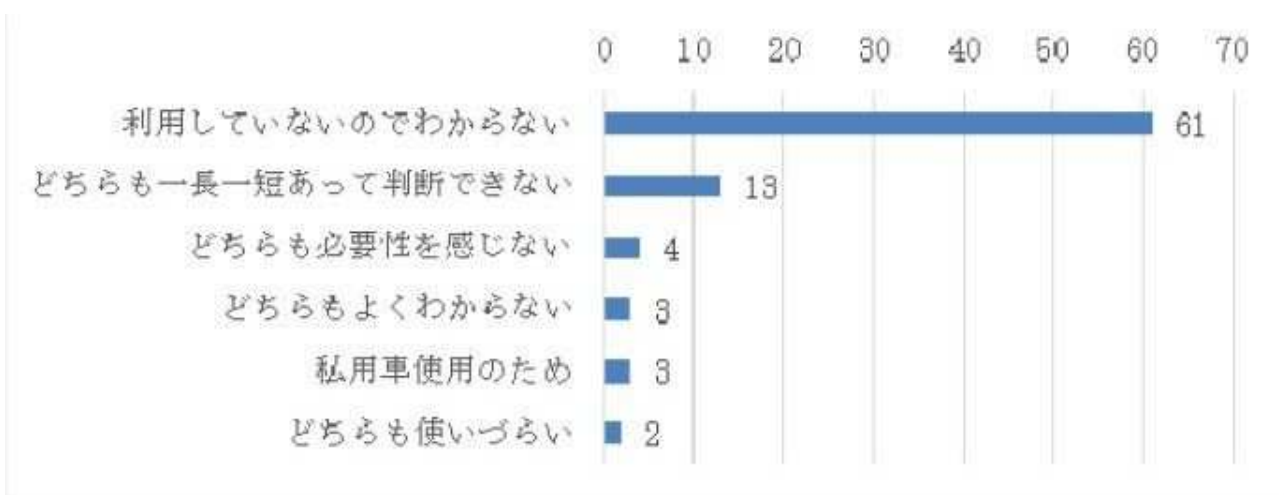
【予約型バスの方が利用しやすいと選択した理由】



その他意見

- ・予約型で、早朝や深夜でも乗れる仕組みだともっと利用しやすい。
- ・慣れればうまく活用できると思う。

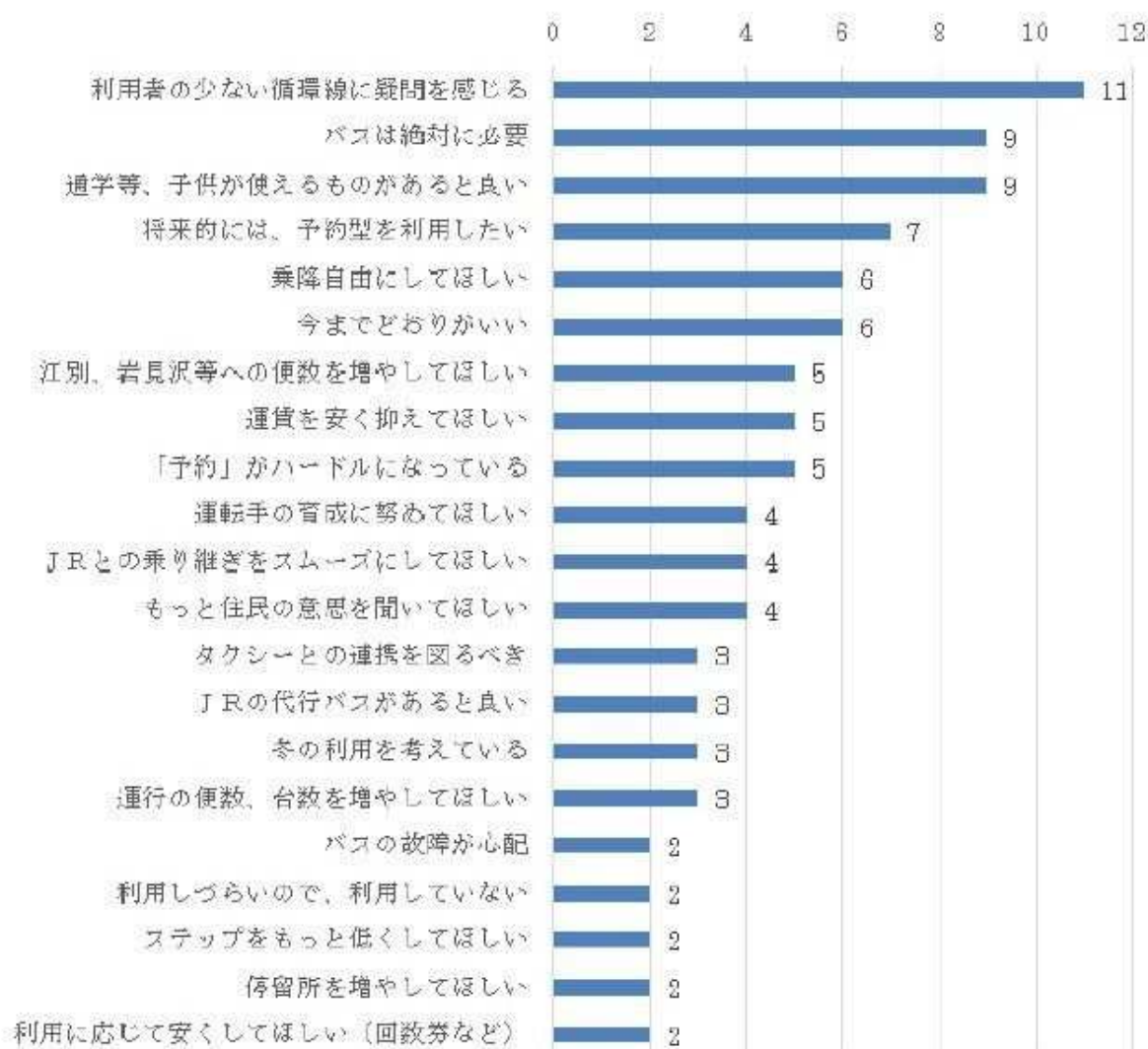
【どちらとも言えないを選択した理由】



その他

- ・利用する人が増える方にしたら良いと思う。
- ・人それぞれ身の回りの環境により、利用方法があると思うから。
- ・通学通勤時間の時間帯に本数が多く、JRへの乗継がしやすければどちらでも良い。
- ・予約型は慣れたら便利だと思うし、循環線は時間がはっきりしていてわかりやすい。
- ・便数が増えればどちらでもいい。

【自由回答】



その他意見

- ・このような取り組みは大変いい事だと思う。
- ・町内を満遍なく回って欲しい。
- ・乗客が少ないところは、曜日と時間を決めて、本数を少なくする。
- ・市街地よりも郊外での実施の方が、効果があると思う。
- ・人口増加、定住促進の施策として重要な事業である以上、補助金を増やしてでもバスは、継続する必要があると思う。
- ・あいの里金沢線の終点を大学ではなく、その先も何便か走らせて欲しい。
- ・利用する人は、少数かもしれないが、バスが走っているという安心感はある。

利用者アンケート結果

アンケート対象者：28名 回答者：15名 回収率 54%

提出されたアンケートに項目未記入があるため、数値が合わないものもある。

個人属性

性別：男性 2名 女性 12名

年齢：10代 1人・30代 1人・60代 2人・70代 9人・80歳以上 2人

職業：無職 7人・主婦（専業） 3人・主婦（パート） 3人・パート 1人
高校生 1人

保有免許：持っている 1人・持っていない 12人・以前持っていた 1人

自動車保有：ほぼ自分専用 1人・なし 8人

市街地循環線利用頻度：

日常的に利用 3人・たまに利用 9人・あまり利用していない 3人

市街地循環線にかわる予約型バスの試験運行について

利用頻度：ほぼ毎日 2人・週に3~4日 3人・週に1~2日 3人
数日（1~4日） 7人

外出目的：通学 1人・通院 6人・買い物 7人・その他 5人

これまでの市街地循環線と比べた予約型バスの利用頻度の変化：

増えた 4人・変わらない 5人・減った 3人

予約型バスの改善要望：

便数を増やす 4人・停留所を増やす 2人・運賃を安くする 3人
乗降しやすい車両を利用 5人・出発/到着時間を希望できる 6人

満足度：満足 6人・どちらとも言えない 3人・不満足 6人

循環線と予約型バスで利用しやすい方は：

循環線 7人・予約型バス 7人・どちらとも言えない 1人

4．運行コストと運行収入

(1) 運行コスト

平成 26 年度当別ふれあいバスの運行コストは、年間約 5,413 万円で、その内訳は、約 7 割が人件費となっている。

表 4-1 平成 26 年度 当別ふれあいバス運行コスト

項目	金額	備考	構成比
人件費	37,162,800 円	運転手・事務員人件費	68.65%
車両費	5,964,200 円	バス借上料・メンテナンス・保険料	11.02%
燃料費	5,538,542 円	軽油・バイオディーゼル燃料	10.23%
バス停費	1,702,400 円	停留所借上料・維持管理費等	3.14%
その他諸経費	2,544,348 円	運行管理費・清掃費等	4.70%
消費税	1,221,287 円	人件費・保険料を除く	2.26%
支出（運行コスト）計	54,133,577 円		
1km あたり運行コスト	185.6 円/km		
1人あたり運行コスト	400.1 円/人		

表 4-2 予約型（デマンド）バス実証運行コスト『平成 26 年 11～12 月分』

項目	金額	備考	構成比
人件費	562,250 円	運転手・事務員人件費	66.41%
車両費	204,600 円	バス借上料・メンテナンス・保険料	24.17%
燃料費	18,640 円	軽油・バイオディーゼル燃料	2.20%
バス停費	0 円	停留所借上料・維持管理費等	0%
その他諸経費	41,328 円	運行管理費・清掃費等	4.88%
消費税	19,837 円	人件費・保険料を除く	2.34%
支出（運行コスト）計	846,655 円		

表 4-3 【参考】市街地循環線運行コスト（2 ヶ月分）

項目	金額	備考	構成比
人件費	561,600 円	運転手・事務員人件費	54.63%
車両費	204,600 円	バス借上料・メンテナンス・保険料	19.90%
燃料費	88,663 円	軽油・バイオディーゼル燃料	8.62%
バス停費	70,453 円	停留所借上料・維持管理費等	6.85%
その他諸経費	69,423 円	運行管理費・清掃費等	6.75%
消費税	33,323 円	人件費・保険料を除く	3.25%
支出（運行コスト）計	1,028,062 円		

表 4-4 市街地循環線と予約型（デマンド）バスの運行コストの比較（2 ヶ月）

項目	市街地循環線	予約型バス	比較 -
人件費	561,600 円	562,250 円	650 円
車両費	204,600 円	204,600 円	0 円
燃料費	88,663 円	18,640 円	70,023 円
バス停費	70,453 円	0 円	70,453 円
その他諸経費	69,423 円	41,328 円	28,095 円
消費税	33,323 円	19,837 円	13,486 円
支出（運行コスト）計	1,028,062 円	846,655 円	181,407 円

181,407 円（2 ヶ月）× 6 = 1,088,442 円 / 年のコスト減少

(2) 運行収入等

運行収入は、現金による運賃収入、全路線乗り放題の応援券（定期券）回数券、1日乗車券の販売収入がある。応援券については、町内に6か所の販売所を設け、販売枚数1枚につき、100円の手数料を販売所に対して支払い、その差額が運行収入となっている。

平成25年度と比較して、回数券と一日乗車券の収入は増加したが、その他の収入が減少したため、平成26年度の運行収入合計は、10,000,000円を割った。

表4-5 収入一覧

	運行収入					広告収入	収入合計
	運賃収入	応援券販売額	回数券販売額	一日乗車券販売額	運行収入合計		
H26.4月	246,700円	454,900円	288,000円	2,300円	991,900円	0円	991,900円
5月	210,100円	229,900円	254,000円	3,800円	697,800円	0円	697,800円
6月	274,700円	177,500円	236,000円	4,300円	692,500円	0円	692,500円
7月	265,000円	197,200円	252,000円	3,900円	718,100円	0円	718,100円
8月	306,200円	195,100円	258,000円	5,700円	765,000円	0円	765,000円
9月	248,300円	169,200円	234,000円	3,500円	655,000円	276,000円	931,000円
10月	267,200円	558,800円	310,000円	5,400円	1,141,400円	0円	1,141,400円
11月	242,300円	284,800円	228,000円	2,500円	757,600円	0円	757,600円
12月	331,000円	276,500円	284,000円	4,500円	896,000円	0円	896,000円
H27.1月	383,200円	290,900円	290,000円	6,300円	970,400円	0円	970,400円
2月	351,100円	172,200円	258,000円	4,200円	785,500円	0円	785,500円
3月	324,100円	210,400円	294,000円	5,800円	834,300円	0円	834,300円
合計	3,449,900円	3,217,400円	3,186,000円	52,200円	9,905,500円	276,000円	10,181,500円

(3) 運行収入の推移

平成 26 年度の運行収入は、平成 25 年度と比較すると約 445,000 円の減少となった。
 平成 27 年 1 月は、吹雪等による J R の運転見合わせにより利用者が増加したことで、運行収入も増加した。

【広告収入を除く】

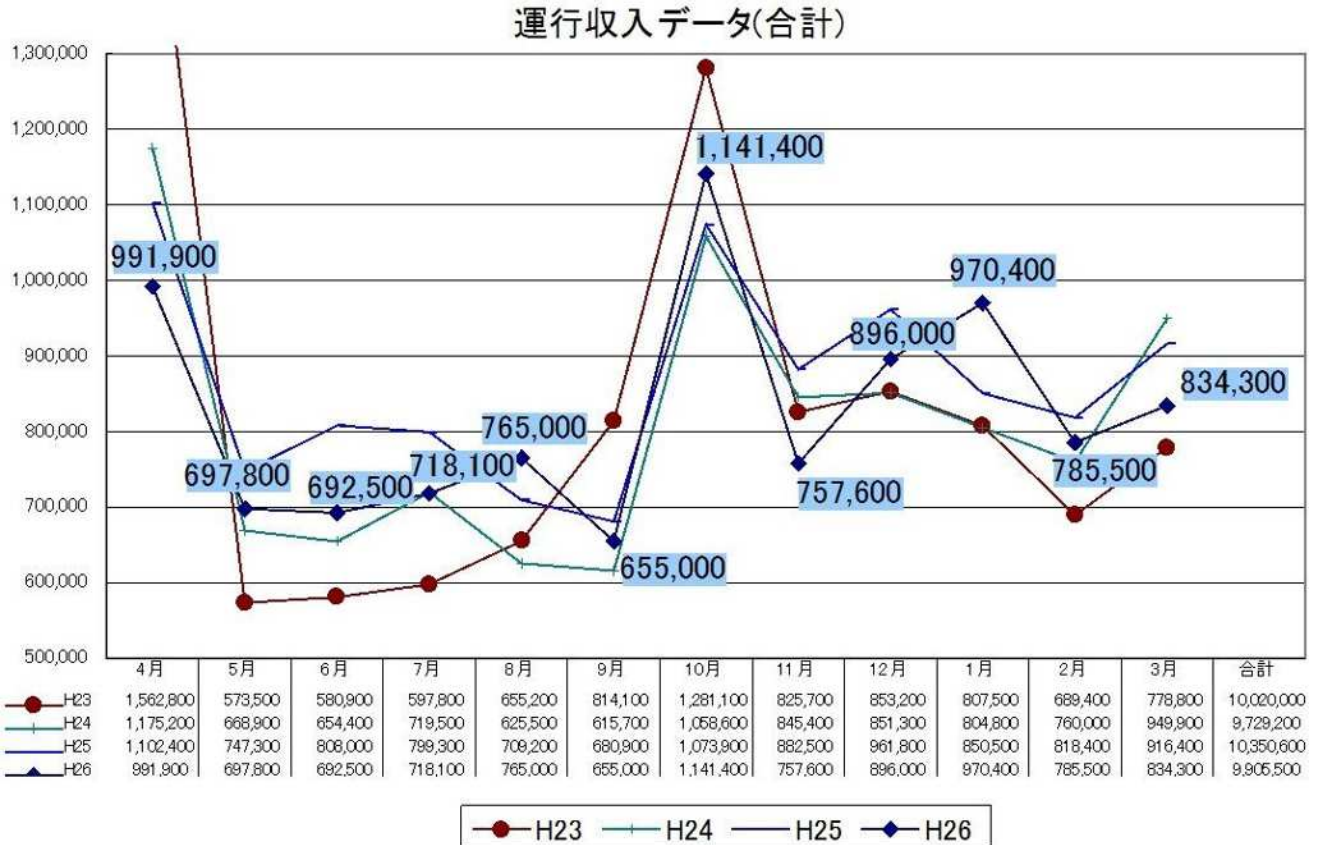


図 4-6 月別運行収入推移



図 4-7 応援券収入推移



図 4-8 運賃収入推移



図 4-9 回数券収入推移



図 4-10 一日乗車券収入推移

(4) 応援券販売実績

表 4-11 応援券販売箇所一覧

販売店名	所在	電話番号	取扱時間
当別町商工会	錦町 1248	23-2447	9:00～17:00(平日のみ)
当別赤れんが6号(ふれあい倉庫)	錦町 294-4	27-6600	9:00～18:00(月曜定休)
当別町社会福祉協議会(高齢者クラブ連合会事務局)	西町 32-2 総合保健福祉センター内	22-2301	9:00～17:00(平日のみ)
(有)下段モータース	樺戸町 1055 番地	23-2630	9:00～18:00
スウェーデンヒルズ管理センター (スウェーデンハウス(株))	スウェーデンヒルズ V2-3-2	26-2348	9:00～18:00
(株)小島商店	太美町 1484	26-2410	8:00～21:00

表 4-12 応援券販売枚数一覧

	一 般				小中学生・高校生・障がい者・介護人						応援券 売上枚数 合計
	1ヶ月 (4,000円)	3ヶ月 (10,000円)	6ヶ月 (16,000円)	小計	1ヶ月 (2,000円)	3ヶ月 (5,000円)	6ヶ月 (8,000円)	限定小学生 (500円)	限定中学生 (1,000円)	小計	
4月	10枚	1枚	18枚	29枚	8枚	2枚	12枚	0枚	0枚	22枚	51枚
5月	5枚	2枚	8枚	15枚	9枚	3枚	4枚	0枚	0枚	16枚	31枚
6月	7枚	1枚	6枚	14枚	6枚	2枚	3枚	0枚	0枚	11枚	25枚
7月	11枚	1枚	5枚	17枚	3枚	4枚	3枚	15枚	11枚	36枚	53枚
8月	8枚	3枚	5枚	16枚	6枚	4枚	3枚	0枚	0枚	13枚	29枚
9月	7枚	2枚	4枚	13枚	9枚	2枚	4枚	0枚	0枚	15枚	28枚
10月	7枚	5枚	21枚	33枚	11枚	5枚	13枚	0枚	0枚	29枚	62枚
11月	7枚	1枚	9枚	17枚	14枚	3枚	8枚	0枚	0枚	25枚	42枚
12月	7枚	5枚	6枚	18枚	11枚	4枚	5枚	18枚	19枚	57枚	75枚
1月	10枚	6枚	7枚	23枚	13枚	5枚	4枚	1枚	0枚	23枚	46枚
2月	6枚	1枚	6枚	13枚	12枚	1枚	2枚	0枚	0枚	15枚	28枚
3月	13枚	1枚	6枚	20枚	11枚	2枚	3枚	0枚	0枚	16枚	36枚
合計	98枚	29枚	101枚	228枚	113枚	37枚	64枚	34枚	30枚	278枚	506枚

(5) 無料利用者

当別ふれあいバスは官民共同で運行しているが、参加事業者が独自でバス運行を行っていた際のサービスを低下させないよう、一定の条件において、無料で利用することができる。

北海道医療大学の病院利用者の無料チケット利用者数は、平成 25 年度よりも約 126 人減少しているが、北海道医療大学の学生の無料チケット利用者は、約 640 枚の増となった。

表 4-10 従来のサービスによる無料対象者一覧

参加事業者	条件	対象路線	対象者	利用方法(無料)
北海道医療大学	当別町金沢及び札幌市あいの里にある当該大学キャンパス	あいの里金沢線	当該付属病院の患者 大学の学生及び教職員	往路：診察券・学生証の提示 復路：無料チケットの交付
スウェーデンハウス	当別町スウェーデンヒルズ内限定の乗降	あいの里金沢線	一般住民	スウェーデンヒルズ内限定の乗降である事を運転手に伝える

表 4-11 無料チケット使用枚数

参加事業者	平成 26 年度 使用枚数	平成 25 年度 使用枚数	対前年度比 (H26 H25)	平成 24 年度 使用枚数	平成 23 年度 使用枚数	平成 22 年度 使用枚数
北海道医療大学 (患者)	3,151 枚	3,277 枚	126 枚	3,388 枚	3,507 枚	3,507 枚
北海道医療大学 (学生)	20,760 枚	20,114 枚	646 枚	24,040 枚	23,065 枚	25,343 枚
合計	23,911 枚	23,391 枚	520 枚	27,428 枚	26,572 枚	28,850 枚

5. 利用促進事業の実績

(1) 夏休み冬休み子ども定期券の販売及びチラシの配布について

昨年に引き続き、小中学校向けモビリティ・マネジメントの一環として、学校の長期休暇にあわせて、格安の応援券の販売を行った。

利用概要

料金	小学生 500 円、中学生 1,000 円
利用期間	夏季：平成 26 年 7 月 25 日(金)~8 月 20 日(水) 冬季：平成 26 年 12 月 23 日(火)~平成 27 年 1 月 19 日(月)
購入場所	ふれあいバス応援券販売所
利用方法	ふれあいバス応援券と同様

利用実績

夏季	小学生 15 枚、中学生 11 枚、合計 26 枚
冬季	小学生 19 枚、中学生 19 枚、合計 38 枚



図 5-1 夏休み子ども定期券



図 5-2 冬休み子ども定期券

子ども定期券の販売に当たっては、周知を図るためチラシを作成し配布した。

概要

- 夏季 学校を通じて町内全小中学生にチラシを配布（7月17日）
- 冬季 学校を通じて町内全小中学生にチラシを配布（12月12日）



図 5-3 子ども定期券周知用チラシ

(2) モビリティ・マネジメント の実施

小学生に対する将来を見越したモビリティ・マネジメントは、今後町内のバス交通を活性化させるために、極めて重要な施策であり、今後も継続して実施していきたい。

小学生を対象とした環境と公共交通に関する授業は、「車と地球温暖化問題についての学習」、「行動プラン法」による「車のかしこい使い方」、「ふれあいバス乗車体験」等に取り組んだ。平成 26 年度は、札幌市立開成小学校から依頼があり、「環境と公共交通に関する授業」を実施しました。



「車と地球温暖化問題についての学習」



「ふれあいバス乗車体験」

実施結果

平成 26 年 8 月 27 日 札幌市立開成小学校 6 年生 「交通と環境」の学習を実施

平成 26 年 10 月 24 日 当別小学校 5 年生 「かしこいクルマの使い方」の実施

「行動プラン法」等の実践

平成 26 年 11 月 25 日 西当別小学校 5 年生 「かしこいクルマの使い方」の実施

「行動プラン法」等の実践

モビリティ・マネジメント

多様な交通施策を活用し、個人や組織・地域の移動状況が社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促す取組みのこと。